INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

- 日本リーグ唯一の公式試合球
- 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

危険なプレーの阻止とスピード感のあるハンドボールを求めて

～審判委員長就任挨拶と新ルールの施行に当たって～

（財）日本ハンドボール協会常務理事　島田 房二

齊藤實前審判長の後を引き継いで常務理事として審判長の仕事をさせていただくことになりました。昭和47年から安藤審判長のもとルール研究委員会のお手伝いをさせていただき、岡前・大塚両審判長の指導で平成４年バルセロナオリンピックに審判員として参加させて頂きました。平成７年齊藤審判長のもと、審判審査委員を命じられ、自分なりに審判員の指導に全力を傾け、視聴覚を使った指導に力を入れてきました。今年は審判指導用のDVDを作り、初心者審判の指導方法の確立等考えていたところ、突然の審判長就任依頼があり、固辞していましたが、現ルール研委員長を初め、今まで齊藤審判長に協力し、支えてくださっていた各審判員の声で引き受けさせて頂くことになりました。自分自身、審判員現役中に各種全国大会での審判や、バルセロナオリンピックに参加できたことで、ハンドボールだけでなく人としての道を指導してくれたハンドボール界に少しでも恩返しが出来ればという考えからです。

すでにご存知の通り８月１日から新ルールでの大会が始まります。IHFの審判委員長もアメリカ人のアール氏に変わり、新ルールでのIHF管理下、初の新ルールの大会が第15回女子Jr世界選手権2005（チェコ）で開催されます。幸いこの試合に家永・福島両国際審判員がノミネートされました。新ルール最初の試合にノミネートされたことは審判界にとって非常に意義のあるスタートが出来ると思っています。審判界も競技者同様北京オリンピックに向けてのスタートを切るべき年、重要な大会にノミネートされたことを、ただ喜ぶだけでなく次に進めるべきステップにしなければいけません。IHFでは、６月21日からタイ・バンコクでコーチレフェリーシンポジウムを開催し、新ルールでの細かい運用など伝達されました。審判部からは国際担当の後藤登氏が参加し、その内容をトップレフェリー研修会等で伝達してくれることになっています。シンポジウムに続いて開催されるアジアユース選手権には昨年度大陸レフェリーとなった安田・永春氏がノミネートされました。

国内でも８月１日から各種全国大会が新ルールで開催されます。大会に出場するチームと審判は新ルールの内容を確認しつつ最高のコンディションを目指して練習に励んできたことと思います。新競技規則の条文が５月中旬にIHFから発表されましたが、現在ルール研究委員長を中心に新しい競技規則書を作成しております。新競技規則書の内容は今まで審判合同会議及び機関誌、ハンドボール協会ホームページで発表された11項目の変更で、７ｍスローコンテストの方法等細かな変更はありますが、試合運営上は問題ありません。新ルールの基本理念は危険なプレーの阻止とスピード感のあるハンドボールだと思います。この理念に基づき、練習成果を十分に発揮してより良い結果を求めて下さい。

第１回アジアユース選手権大会（世界選手権予選）速報

女子：2006年第１回女子ユース世界選手権出場権獲得
男子：３位、ユース世界選手権出場権逃す

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

国際ハンドボール連盟（IHF）は 2006 年からユースの世界選手権を新設した。これはより魅力的なハンドボール、世界のレベルアップのためには若い世代からの強化が不可欠との判断からである。日本でも NTS をはじめとする競技者育成システムが軌道に乗り始めてきている。ユース世界大会の新設は日本にとっても大きな意味を持つ大会である。

世界ユース大会の予選を兼ねた、第１回アジアユース選手権が 2005 年６月 26 日（日）～７月２日（土）、タイ（バンコック：ニミブトル体育館）にて男女同時開催された。男子は 19 歳以下、女子は 18 歳以下のチーム編成。このアジア大会で男子は２位以内、女子は３位以内に入ると、ユース世界選手権へ出場権が獲得できる。男子は８ヶ国がＡグループ；韓国、イラン、タイ、マカオ、Ｂグループ；日本、バーレーン、チャイニーズタイペイ、インド に別れリーグ戦を行った。各組上位２チームによる決勝トーナメントで上位２チームが 2005 年第１回男子ユース世界選手権（カタール）の出場権を獲得。女子５チーム（日本、韓国、チャイニーズタイペイ、タイ、インド）による１回戦総当たり上位３チームが 2006 年第１回女子ユース世界選手権（カナダ）の出場権を獲得。

男子はＢリーグを１位で突破、準決勝で韓国に２点差で敗れて世界選手権の出場権を逃したが、３位決定戦ではバーレーンを破り３位となった。女子は３勝１敗、全勝の韓国に続き２位で世界選手権への出場権を獲得した。

【男子予選リーグ結果】※各組上位２カ国が決勝トーナメント進出

〈A 組〉　１位；イラン　２位；韓国　３位；タイ　４位；マカオ

〈B 組〉　１位；日本　２位；バーレーン

３位；チャイニーズタイペイ　４位；インド

男子最終順位

１位　韓国
２位　イラン
３位　日本
４位　バーレーン
５位　チャイニーズタイペイ
６位　タイ
７位　インド
８位　マカオ

女子最終順位

１位　韓国（４勝）
２位　日本（３勝１敗）
３位　タイ（１勝２敗１分）
４位　チャイニーズタイペイ（１勝２敗１分）
５位　インド（４敗）

日本代表男子Ｕ－19

	氏　名	所属先
団　長	蒲生　晴明	（財）日本ハンドボール協会
監　督	玉村　健次	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	滝川　一徳	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	尾中　祐二	トレーナーズフォーアスリート

ポジション	氏　名	所属先名
GK	田中　雄大	筑波大学
GK	甲斐　昭人	小林工業高校
CP	太田　純二	東海大学
CP	安藤　正泰	日本大学
CP	小川　雄也	日本体育大学
CP	染谷　雄輝	日本体育大学
CP	熊谷　孟	明治大学
CP	森田　智史	大阪体育大学
CP	野村　喜亮	早稲田大学
CP	木村　雅俊	筑波大学
CP	森　淳	大阪体育大学
CP	谷村　遼太	大阪体育大学
CP	石戸　貴章	法政大学
CP	恒見　宏平	中央大学
CP	棚原　良	興南高校
CP	東長濱　秀希	興南高校

日本代表女子Ｕ－18

	氏　名	所属先
団　長	蒲生　晴明	（財）日本ハンドボール協会
監　督	繁田　順子	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	楠本　繁生	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	島田　信弘	横須賀共済病院
トレーナー	木下　幸司	大阪パンジョスポーツクリニック

ポジション	氏　名	所属校高等学校
GK	亟々　知佳	夙川学院高
GK	平良　彩乃	那覇西高
CP	山上　麻美	洛北高
CP	岡本　真季	四天王寺高
CP	石野　実加子	氷見高
CP	鳥飼　翠	富岡東高
CP	樽井　沙織	浦和実業高
CP	戎野　満梨奈	四天王寺高
CP	高良　温子	那覇西高
CP	中池　翠	松橋高
CP	西銘　紗貴	那覇西高
CP	作内　杏那	高岡向陵高
CP	山野　由美子	小松市立高
CP	荒金　薫	夙川学院高
CP	後藤　千渡世	洛北高
CP	岡本　藍	四天王寺高

ギョンナム・アナズヴィルカップ●国際女子ハンドボール大会詳報●

全日本女子 北京に向けて始動 ソウルで躍動

前号速報で報告したように、女子ナショナルチームが北京に向けて始動した。新監督ベルト・バウワー氏を迎え、ギョンナム・アナズヴィルカップ国際女子ハンドボール大会に参加した。同大会はソウルオリンピックを記念した大会で、昨年まではソウルカップと称されていたもの。

今年の大会ではアテネオリンピックの３位までの全てのチームが参加するレベルの高いものであった。全日本は韓国、デンマークには敗れたもののアテネオリンピック３位のウクライナには22-20で勝利、２位から４位までが２勝２敗で並び対戦間得失点差で４位であった。プライベート大会ではあるが、ヨーロッパ勢に勝利した意味は大きく、本年１２月に行われる世界選手権（ロシア）、続く北京オリンピックに向けて大きな一歩となった。また、バウワー氏も大会直前に就任、直前の合宿に参加してのソウル入り、今回の好成果で今後のチーム作りに期待が高まる。

大会は５月26日（木）～31日（火）まで、韓国・龍仁市室内体育館（京畿道　龍仁市）で開催された。今号では参加した２名の選手のコメント、参加国、戦績、役員・選手名簿を掲載いたします。

写真提供：スポーツイベント社

大きな自信を持って世界選手権に臨む

坂元 智子（オムロン）

写真提供：スポーツイベント社

ナショナルが新しくスタートしたのは今大会に参加する１週間前のこと。たった１週間という短い時間、コンビは上手くとれるか・本当に世界と戦えるのかと不安を抱えたなかでの出場でした。

今大会にはデンマーク・韓国・ウクライナとアテネオリンピックで金、銀、銅と世界のトップが参加、どのチームもメンバーの入れ替りはあったものの、高さ・スピード・パワーというものは迫力があり、実際、私達日本は相手のパワーに負けて倒されるというシーンが多く、力の差を感じさせられました。その選手達にどこまで粘り強く、そしてあきらめない戦いをするか。短い期間しか練習していない私達にとって今回、これが１番重要なことだったのではないかと思いました。

結果としてはウクライナ・中国に勝ち２勝２敗、得失点で４位に終わりましたがこの２勝というものはまだまだフィジカル面、メンタル面など課題は多くあるものの、日本にとって大きな自信になったと思います。また、このような経験を積み重ね、世界で戦える力を養い、今年12月にロシアで行われる世界選手権に臨みます。そして、今の日本が最も目標としている2008年北京オリンピックに出場する為に今後、何をしなければならないのか、何をするべきなのかをチーム、そして選手一人一人が考えなければならないと思います。

次に向けての新しいスタート

中村 尚美（北国銀行）

全日本女子の監督に初めて外国人監督ベルト・バウワー氏が就任し、新体制でソウルカップに臨みました。短期間で大会に臨むことになったので、合宿中はコミュニケーションをとりながら意思疎通をはかりました。ベルトがコートプレーヤーに求めているのは、OF面では（FBも含めて）ワイドに攻めること、緩急をつけること、常にシュートを狙いながら

写真提供：スポーツイベント社

プレーすること、DF面では、当たりの強さを要求されました。現時点では、ベルトの要求に対して体が反応し切れていないように思います。今後はヨーロッパスタイルを取り入れながら、今までの日本が築き上げてきたハンドボールをより一層生かすことができるよう努力していきたいと思います。

参加国と最終順位

1位　韓国（4勝）
2位　デンマーク（2勝2敗）
3位　ウクライナ（2勝2敗）
4位　日本（2勝2敗）
5位　中国（4敗）
※2位～4位の順位は、対戦間得失点差により決定
デンマーク（＋11）、ウクライナ（-1）、日本（-10）

選手団名簿

	氏名	所属先
団　長	大西　武三	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	ベルト バウワー	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	荷川取　義浩	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	東江　正作	(財)日本ハンドボール協会
トレーナー	倉田　忠司	(有)トータルヘルスコンディショニング

ポジション	選手名	所属チーム
GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州
GK	田中　麻美	北國銀行
CP	佐久川　ひとみ	オムロン
CP	坂元　智子	オムロン
CP	冨田　有美	オムロン
CP	水野　恵子	オムロン
CP	東濱　裕子	オムロン
CP	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州
CP	大前　典子	広島メイプルレッズ
CP	樋口　真央	筑波大
CP	中村　尚美	北國銀行
CP	小野澤　香理	北國銀行
CP	武井　夏紀	北國銀行
CP	早船　愛子	GOG（デンマーク）
CP	小松　真理子	イェイダ（スペイン）

戦績と戦いの記録

◆第1日目；5月27日（金）

韓　国　34（19-10, 15-15）25　ウクライナ

デンマーク　32（18-11, 14-15）26　中　国

◆第2日目；5月28日（土）

ウクライナ　32（17-17, 15-13）30　中　国

デンマーク　35（17-12, 18-11）23　日　本

今大会初戦のということもあり、緊張からか5分、4対2とリードされるが、徐々に固さが取れ、10分には6対5と逆転する。

しばらく一進一退が続いたが、ミスから逆速攻を仕掛けられリードを許す。しかし両サイド、ポスト、カットイン、ロングと数多くの得点チャンスを作りながら追いつくことができず、5点リードされ前半を終了。

後半に入り、メンバーを入れ替えて臨むが、前半同様、立ち上がりが悪く、リードを広げられる。しかし落ち着きを取り戻した後、負けずに得点を挙げる。途中退場が続き、点差は広がるが、後半出場のメンバーも自分の持ち味を十分に発揮。明日以降が楽しみなゲームであった。少しのミスを得点に結びつけるデンマークを手本としたい。

【得点者】　中村8, 冨田4, 小野澤・坂元・早船・水野2,
田中美・大前・樋口1

◆第3日目；5月29日（日）

日　本　22（10-11, 12- 9）20　ウクライナ

7mスローで先制されるが、すぐさま坂元のポストで同点、10分には6対3でリードが､15分過ぎに冨田の7mスロー、小野澤のカットイン、佐久川のサイドの3連取で同点に追いつく。その後、3連取されて苦しい展開になるが、佐久川の速攻・サイド、終了間際の冨田の7mスローで1点差で

写真提供：スポーツイベント社

写真提供：スポーツイベント社

前半を終える。

後半に入り、すぐさま2連取されて3点リードされるが、18分までに4連取を2回記録し、逆転に成功。前日同様、投入した選手が活躍、得点を万遍なく取れた。前半は田中麻、後半は飛田と両GKがファインセーブを連発し、DF陣を勇気づけたのも大きかった。残り2試合も粘り強いゲームができる様、頑張りたい。選手たちにはとても大きな自信となった。

【得点者】 冨田6，佐久川4，小松・田中美・坂元・中村2，小野澤・早船・水野・大前1

韓　国　43（18－ 9，25－ 8）17　中　国

◆第4日目；5月30日（月）

韓　国　33（16－ 7，17－16）23　日　本

試合開始から積極的なDFを仕掛けてきた韓国に対し、15分までに4対10と先行を許す。田中美を軸に攻撃の立て直しを図るが、気持ちのみ空回りし、ミスからの逆速攻をあび、7対16で前半を終了。

後半に入り、坂元のポストシュートなどで波に乗るかと思われたが､小さなミスを速攻につなげられ、点差を縮めることができない。

その中で、樋口・東濱の若手コンビがナイスプレーを連発させた。今大会参加国の中で、一番チームの完成度を感じさせた韓国に対し、次に期待できる後半の戦いであった。明日の最終戦、全員の力で勝利したい。

【得点者】 坂元6，田中美4，中村・冨田・小野澤・樋口・東濱2，佐久川・早船・大前1

ウクライナ　23（13－10，10－12）22　デンマーク

◆第5日目；5月31日（火）

日　本　37（20－11，17－12）23　中　国

先制点は早船のミドルシュート。6分3対3、そこから7分間で5連取し、主導権を握る。前半だけで8本の7mスローを得る。2本は失敗したものの、6本を決め、ゲームを優位に進める。全員が体を張ったプレーで次々と飛び込んでいった結果である。DF陣もGK田中麻の好セーブでリズムをつかみ、大量9点リードで前半を終了。

後半、替わって入ったGK飛田も好セーブを連発し、チームに勢いをもたらす。ベテラン勢の安定したゲーム運びが際立ったゲームであった。

今大会、結果4位となったが、この2連勝は大きな自信となるだろう。選手たちの大きな自信とプレーに拍手を送りたい。

【得点者】 早船7，中村・坂元6，冨田5，田中美4，小松・樋口・小野澤2，佐久川・水野・東濱1

韓　国　35（17－10，18－20）30　デンマーク

日本協会便り　修学旅行で中学生が日本協会を訪問

知立市立知立中学校（鈴木徳二校長先生：愛知県）の3年生3人（渡辺裕起君、山口京介君、黒田万紀子さん）が修学旅行の自由行動・社会見学として日本協会事務局（東京原宿）を5月20日に訪問しました。3人はハンドボール部員で女子は県大会出場、男子は地区大会出場とのこと。3人ともハンドボールが大好きで東京でハンドボールと関係があるところを訪問したいと日本協会事務局を選んだとのことでした。修学旅行は2泊3日で､初日は富士五湖周辺、2日目は東京へ移動、その午後が自由行動。当日は女子ナショナルチームヘッドコーチ(監督)就任記者会見が行われ、3人も同席、貴重な体験をしていただけました。

記者会見会場でベルト・バウワー氏と共に

第２回東アジアクラブ選手権大会報告②

レフェリー報告

かけがえのない経験、そして次へ

Ａ級審判員　福田　弘（茨城県立竜ヶ崎第二高等学校）

４月８日から３日間、第２回東アジアクラブ選手権が中国・蘇州で開催されました。前号の早川文司氏のレポートに続き今号では帯同審判として参加した福田弘氏のレポートと大会結果、個人成績を掲載致します。

はじめに

平成17年４月８日～10日の３日間、第２回東アジアハンドボールクラブ選手権大会にレフェリーとして参加しました。

日本協会から大会参加の依頼があったのは３月に入ってからだったと思います。地元茨城で開催される全国高校選抜大会の直前、県内の人事異動の時期と重なり慌しい状況にありました。それにしても国際大会への帯同参加依頼は大変な驚きでした。責任の大きさに身が引き締まる思いがしました。同時に一生に一度の幸運を得た喜びが湧き上がってきました。ペアの冨田拓氏と相談し、ありがたく参加させていただくことにしました。

大会への準備は、全国高校選抜大会への準備と同大会での吹笛反省をあてることにしました。幸い最終日（女子決勝）まで割り当てがあり、かなりの吹笛準備はできたと思います。

４月７日９時50分成田発NH919便で出発、上海からはバスで３時間半、会場地、蘇州に到着しました。

参加レフェリー

審判長　Li Zhiwen（李 之文）

審判員　中国　Lu Miaochun ／ Chen Shaobo（CHN1）

Liu Fengjuan ／ Liu Shuyong（CHN2）

韓国　Choi Byung-Jang ／ Kang Tae-Koo

日本　福田　弘／冨田　拓

レフェリーミーティング等

（1）第１回レフェリーミーティング（４／７　20：00～）

審判長、李之文氏の挨拶、レフェリー紹介、大会日程説明。

（2）代表者会議（４／８　９：00～）

大会委員長Peng Ning氏の挨拶、審判長、レフェリー、チーム紹介、メンバーの最終確認、ユニフォームの色、対戦カード毎に確認。

（3）第２回レフェリーミーティング（４／９　10：00～）

李氏の指導。

①第１試合　広島 26 － 21 BEIBU（レフェリー：KOR）

・押し込み６ｍ以内は７ｍスローではない。
・アドバンテージの適応OK。
・GKのアウトボールの処理の観察に手を抜かないこと。
・チームタイムアウトの管理、請求した方が終わればスタートして良い。

②第２試合　暁明 37 － 24 ANHUI（レフェリー：CHN2）

・フリースローのポイントを丁寧に示すこと。
・ゴールキーパースローかスローインなのかはっきり示すこと。
・シュートブロック→バウンド→キャッチ→ドリブルはダブルドリブルにならない！
・罰則判定でYCと２分を出して、結局YCにしてしまった。２分にすべき。
・レフェリーの動きが緩慢。もっと素早くポジションへ。

③第３試合　KOROSA 28 － 20 BEIJING（レフェリー：JPN）

・コントロールOK。
・ユニフォーム引っ張る、少なくとも２分。
・チャージングの判定OK。
・正面のハードプレーはOK、YCの２つは間違い。
・横や後ろから腕を引っかける行為は少なくとも２分。
・終了３分前のプッシングによるオーバーステップをオーバーステップに判定。

④第４試合　大崎 31 － 24 JIANGSU（レフェリー：CHN1）

・差し違いがあった。GRがジェスチャーを待つことで防げる。
・シュートチャンスにポストとDFへの注意をしないこと。
・GKがプレーイングエリアに出ればCPと同じ基準で判定される。
・ユニフォームを引っ張る、つかむ行為は少なくとも２分。

（4）第３回レフェリーミーティング（４／10　９：000～）

李氏の指導。

①第１試合　BEIBU 23 － 23 ANHUI（レフェリー：JPN）

・パッシブプレーの判定OK。注意、スローオフ、即予告。
・ホットプレーをクールにジャッジOK。

・スリップダウンは即タイムアウト、モップ、安全確認後再開すること。
・もっとホットなゲームでは、ボディ表現、態度、姿勢、表情など全てを注ぎ込んで判定しなければならない。

②第２試合　広島 38 － 28 暁明（レフェリー：CHN2）
・アドバンテージを見ること。
・ボールを奪い取るプレーは認められない。
・スリップダウン時の対処に課題。
・後半、暁明のスローオフが遅い、早くやるようにアクションを起こすこと。

③第３試合　JIANGSU 25 － 24 BEIJING（レフェリー：KOR）
・前半 21 分、ファール着地シュート、７ｍスロー OK。
・ポケットに RC を探して２分を出した。ポケットに２本指が入っていたのか？！
・プレー中タイムアウトをとったが、退場者管理上の単なる勘違いだった。

④第４試合　KOROSA 31 － 27 大崎（レフェリー：CHN1）
・ユニフォーム引っ張る、２分の判定が望ましい。
・笛の強弱、メロディーを奏でなさい。
・ホットなゲーム、メリハリ表現が必要。パワフルでクリアな表現が欲しい。
・ラスト 10 分でのミスがあった。肉体的疲労に勝つ体力、集中持続力が必要。

担当ゲームの反省

① KOROSA 28 － 20 BEIJING（４／８）
・プレッシャーやストレスから平常心を失いそうになった。
・注意が多過ぎ、優柔不断なジャッジに見えてしまった。出すものは出す。
・国内では通用しても、国際試合では通用しないものもある。
・レフェリーのジェスチャーはルール上のものだけに原則として限定される。
・ユニフォームを短パンの中に入れさせること。
・何が起こるかわからないのが国際試合である、コートから目を離さないこと。
・YC は２人で出しに行くな、１人は周りに注意を払うこと。
・チームタイムアウト時、コート内入場許可のジェスチャーは国際ルールでは必要。
・チャージングの判定ミスは位置取りが悪いからである。
・視野をもっと広く、コート全体を視野に入れなければならない。
・前半最後の笛はいらない、GK スローのやり直し、違反ジャンピングスローに気づいているのはレフェリーと GK だけ、大勢に影響なし。
・サイドシュート時、GK の顔面に当たる。シューターが腕を叩かれたのなら７ｍスローである。それなのにスローインで再開してしまった。
・両レフェリーが視野を受け渡す意識を共有すること、目を離すと何が起こるかわからない。
・ちょっとしたミスが大きなミスにつながってしまうことがある。今日はたまたまなかっただけ。選手に感謝したい。
・流れを読んで、はっきりとした判定をしてゆきたい。

② BEIBU 23 － 23 ANHUI（４／９）
・オーバーステップの基準、パッシブプレーの基準、チャージングの基準、最後の 10 分にぶれてしまった。
・後半の段階罰に課題を感じる。
・退場者がいるとき、GK の遅延行為にもっとはっきりとしたアクションを起こすべきであった。
・タイムアウトのジェスチャーを大きくはっきりと示したい。
・７ｍスロー時の位置取りを工夫したい。
・GR から CR へもっと早く移動すべきであった。

③暁明 31 － 24 BEIBU（４／ 10）
・60 分のゲームで 50 分間はほぼ完璧に吹けているのに、勝負所の 10 分の締めが甘い。
・ベンチ反対側に、テープに松ヤニがストックされているのを、気づきながら処理できなかった。
・GK の治療行為はコート外で行わせるべきであった。

・ホットなゲームではベンチからのプレッシャーもかなりある、判定を乱さないようにしたい。
・残り10分、勝負所、そこを裁き切れるのが一流である。目標にしたい。

おわりに

今回、私たちは東アジアクラブ選手権大会という国際試合を吹笛させていただきました。かけがえのない経験となりました。中国蘇州という海外で開催された大会であるだけに貴重なことです。さらに、李之文審判長から身に余る高い評価をいただき、大きな自信になりました。やはり、今までのレフェリー人生の中で最高の充実感を味わうことができたといえるでしょう。

反日運動の荒れ狂うさなか、開催地が北京から蘇州へと急遽変更になり、厳重な警備の下での大会でした。しかも無観客試合に近い異常な状況もありました。後になって思えば、冷や汗ものでした。しかし、私たちが出会った中国のハンドボール関係者は、とても明るく親切で真摯な態度の方たちばかりでした。

フェアウェルパーティーでレフェリー仲間で別れを惜しんだこと。中国レフェリー（CHN1は大男組2人合わせて3m 90cmくらいある。CHN2は女性ペア、2人とも180cmは超えている。）の暖かい人間性にふれたこと。広島メイプルレッズの呉成玉選手の通訳で韓国レフェリーと談笑したこと。上海に住む友人のWu（呉）さんに再会できたこと（かつて日本に8年間滞在し学生リーグのレフェリーなども一緒にした仲間。彼は大会中オフィシャルに入ったり、副会長の通訳に入ったり、安全な土産物屋を探してくれたり、大車輪の活躍をしてくれました。）バス移動時、大崎電気の選手の明るさ（特に東選手）に和んだこと。独り静かに敗戦からの闘志を燃え上がらせていた宮崎選手の姿。貴重な体験が沢山ありました。

最後に、私たちが大会に参加するに当たり多大なるご尽力をしてくださった方々に深く感謝いたします。日本リーグ機構会長の市原則之氏、副会長の山下泉氏、委員長の川上憲太氏。日本協会審判長の島田房二氏、前審判長の齊藤實氏。特に、TDとして同行してくださった副委員長の後藤登氏には現地で貴重なアドバイスを沢山いただき、安定したレフェリングの大きな支えとなりました。GM担当の田中茂氏には現地で細部にわたり大変お世話になりました。出発直前に開催地が急遽変更になったこともあり、日本協会の平賀さんにも大変お世話になりました。また、年度始めの多忙な時期に休暇をとらせてくれた職場の上司、同僚、私たちを支えてくださった多くの皆様方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

李之文審判長から高い評価をいただけたことを誇りにし、初心を忘れず謙虚に、ますます精進してゆきたいと思います。

本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

試合結果 男子

◆第1日目；4月8日（金）

大崎電気（日本） 31（12-12, 19-12）24 JIANGSU（中国）

中国ボールでゲームがスタート。中国は背が高く、ロングシュート・ポストを使っての攻撃が中心で、大崎は中国のロングシュートを止めることができず、相手のリズムでゲームが進む。大崎もオフェンスは宮崎が得点を重ね、一進一退のゲームが続くが、中国の荒いディフェンスに若干対応できないまま、前半を同点で折り返した。

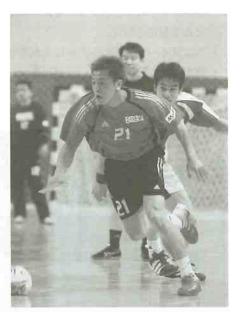
後半、大崎は太田の得点でスタートし、後半5分過ぎ岩本のロングシュートが決まり2点差とする。その後も太田の速攻、豊田のサイドシュートなどが決まり、15分過ぎには5点差とし、更に前田の連続ロングシュートが決まり、7点差と得点差を広げる。最後は中国もロングシュートだけの単調な攻めとなり、そのまま試合終了となる。中国の高さを、大崎のスピードとテクニックでカバーした試合であった。

【得点者】 宮崎9，豊田5，太田4，猪妻･岩本･前田3，東2，加藤・小林1

KOROSA（韓国） 28（11-10, 17-10）20 BEIJING（中国）

◆第2日目；4月9日（土）

大崎電気（日本） 27（14-11, 13-20）31 KOROSA（韓国）

大崎ボールでゲームがスタート、韓国DFは高い位置での積極的3－2－1DF。大崎の多彩な攻撃に対し、攻撃の糸口となるバックプレーヤーを早め早めに止めるDFである。大崎も間の広い空間を使って東のポスト、フリースローフォーメーションから豊田、韓国DFが下がったところを、宮崎のロングシュートと得点を重ねる。韓国はDFから素早い速攻で得点を挙げて行く。前半13分過ぎには、猪妻の連続速攻で3点差にするものの、15分過ぎメンバーを大幅に入れ替えた大崎に対し、韓国も怒涛の速攻で21分9－9の同点とされる。前半残り3分には前田のカットイン、永島の速攻、加藤のミドルシュートで再び3点差とし、大崎3点リードで前半

写真提供：スポーツイベント社

を折り返す。

後半開始早々、韓国№20のカットイン、ミドルシュート、速攻で後半開始３分には同点となり、流れが韓国に傾き試合の主導権を握られる。大崎も岩本のロングシュート、サイドシュートで応戦するも、DFでの永島の退場などがあり、その後も、佐藤、猪妻の退場が続き、なかなか傾いた主導権を引き寄せることが出来ない。攻撃でも人数の少なくなった大崎に対し、大崎のシュートミスを全て速攻で運ばれ、後半10分から15分の５分間に６得点を挙げられ、４点差に。その後、猪妻の速攻で加点するものの連続得点を挙げることが出来ないまま、後半の５分間の４点差を挽回できないまま試合終了となる。実に韓国の得点の半分近くを速攻で得点した速い攻撃が目についた試合だった。

【得点者】 猪妻５，豊田・宮崎・加藤４，岩本・前田３，東・永島２

JIANGSU（中国） 25（9-12, 16-12）24 BEIJING（中国）

◆第３日目；４月10日（日）

大崎電気（日本） 26（13-14, 13-15）29 BEIJING（中国）

前半、中国の高さプラス３－２－１の積極的DFを攻めあぐね、なかなかリズムを掴めない大崎に対し、13分までにミドルシュート、速攻、サイドシュートと多彩な攻めを見せた中国に４－９とされたところで、大崎が作戦タイムを要求。タイムアウト後、大崎も永島をトップに出したことで、中国もミスを連発した。そのところで、３本の速攻、２本のカットインで得点し18分までに９－10の１点差まで追い上げリズムを掴むかと思った。その矢先に、DFの要、岩本が攻撃の際に中国DFの肘が顔面に入り退場。大崎は再び６－０DFに変える。その後、一進一退の攻防が続き、前半を13－14の中国１点リードで折り返す。

後半早々、２連続得点で大崎が逆転するも、中国もロングシュート、速攻で得点を重ねて15分まで中国１点差のまま試合が進む。15分過ぎから、大崎の３連続ノーマークシュートミスが続き、また、DFで豊田の退場などもあり中国に４連取され、21分には６点差となるロングシュートを決められる。その後、後半25分過ぎまで６点差を挽回することが出来ず、時間が過ぎていく。残り５分、大崎も猪妻、太田、豊田の速攻で勝利に対しての意欲が見られた。しかし、時間との戦いで、大崎もDFのマンツーマンを仕掛けるなどしたが、最後には、間を切られだめ押し得点を許し試合終了。後半での勝負どころでの連続シュートミスが最後まで響いた試合であった。これにより、大崎は１勝２敗となったが、得失点差で２位となった。

【得点者】 太田・猪妻５，豊田・宮崎４，岩本３，東・前田２，永島１

KOROSA（韓国） 31（17-5, 14-12）17 JIANGSU（中国）

試合結果 女子

◆第１日目；４月８日（金）

広島メイプルレッズ 26（9-10, 17-11）21 BEIBU（中国）

広島ボールでゲームが始まり、最初の攻撃で青戸が７ｍスローを獲得。金が７ｍスローを決めて得点。試合がスムーズに流れるかと思ったが、その後、中国の高さ・パワーに圧倒され、８分間広島の得点が止まる。しかし中国もオフェンスでミスがあり、ロースコアで試合が展開されていく。前半の半ば、広島のオフェンスミスから相手に速攻され、３点ビハインドとなるが、前半終了間際に広島が２連取し前半を１点ビハインドで折り返す。

後半、前半の反省からかオフェンスでボール回しが速くなり、また守ってはGK浅井の連続ノーマークシュートを止めるファインプレーもあり、速攻・セットで連続５得点をあげ、中国を引き離しにかかる。その後、６～７点差の攻防が続くが、残り10分で疲れの見えた広島を中国が攻め、連続得点で４点差。しかし、そこですかさず広島がタイムアウトを要求。その後オフェンスでリズムを取り戻し、５点差で終了。GK浅井の活躍が目立った試合であった。

【得点者】 金９，石山７，林４，大前・坪井・呉２

暁明 （韓国） 37（20-9, 17-15）24 ANHUI （中国）

◆第２日目；４月９日（土）

広島メイプルレッズ 38（17-12, 21-16）28 暁明（韓国）

立ち上がりから一進一退の攻防で２点と差の開かない展開を見せた両チーム。広島は速攻の展開にたびたび持ち込むものの、韓国もセットで広島DFを崩し、両者共に主導権を握る事が出来ないまま18分が経過。この時点で８－10と２点のビハインドを負った広島だったが、ここから、林、呉のコンビプレーを中心に連続得点、逆転に成功すると、一気に広島に流れが傾き、リードを５点まで広げて前半を折り返した。

写真提供：スポーツイベント社

後半に入り広島は、相手選手の退場を生かせないなど、やや決め手を欠き、次第に韓国に追い上げられる。

後半14分には2点差までに詰め寄られた。しかし、ここでクイックスタートからの早い攻撃から、林が決めると流れを引き戻し、DFから速い攻撃につなげる形で5連取。その後、韓国も個人技などで得点を挙げるものの、幅広い攻撃を見せる広島の勢いを止める事が出来ない。

最後は、大幅にメンバーを入れ替えるだけの余力を見せた広島が、アテネオリンピック代表選手を多く抱える韓国を38対26の大差で下した。

【得点者】 金・呉9，青戸6，林・大前4，杉本3，
石山・河本・土屋1

BEIBU（中国） 23（8-12, 15-11）23 ANHUI（中国）

◆第3日目；4月10日（日）

広島メイプルレッズ 30（14-13, 16-13）26 ANHUI（中国）

勝って優勝を全勝で飾りたい広島は、中国の高さのある攻撃に対し、1人がしっかり前に詰めてつぶすことにより、相手の攻撃の中心であるバックプレーヤーのロングシュートを止めるDFを敷いた。これが功を奏し、前半10分には6－2とし広島ペースで進むかと思われた。しかし、その後、攻撃でのシュートミスが目立ち25分にはリードが1点となり、たまらずタイムを要求。作戦タイム直後、大前のサイドシュートに対し、中国DFの危険なプレーで中国選手に対しレッドカードが出る。

後半開始から中国はDFを3－2－1に変えた。広島も攻撃での対応が遅れるところを、中国No.14、No.6の連続ロングシュートで中国が逆転に成功するが、中国DFに退場者が出て中国もなかなか主導権を握れない。その後、一進一退の攻防が続き、15分過ぎには広島GK浅井の連続ファインセーブで中国の得点チャンスをことごとくつぶしていく。浅井のセーブに刺激された形で攻撃もリズムを取り戻し、杉本のカットイン、速攻と連続得点し主導権を握る。後半終盤には広島、金のこの日11点目のだめ押しゴールを決め4点差に。中国も残り30秒ポストで得点するも試合終了。苦しいときに広島守護神、浅井の活躍が目立った試合であった。この勝利で、広島は3連勝で全勝優勝、東アジアクラブ選手権を有終の美で飾った。

【得点者】 金11，呉5，大前・杉本4，青戸3，
土屋2，河本1

曉明（韓国） 31（11-14, 20-10）24 BEIBU（中国）

順位表

男子順位表

	点	勝	分	敗	得点	失点	差
① KOROSA	6	3	0	0	90	64	26
②大崎電気	2	1	0	2	84	84	0
③ BEIJING	2	1	0	2	73	79	-6
④ JIANGSU	2	1	0	2	66	86	-20

（注）2－4位は得失点差による

女子順位表

	点	勝	分	敗	得点	失点	差
①メイプル	6	3	0	0	94	75	19
②曉明	4	2	0	1	96	86	10
③ BEIBU	1	0	1	2	68	80	-12
④ ANHUI	1	0	1	2	73	90	-17

（注）3、4位は得失点差による

個人成績

【大崎電気】

	①	②	③	計
浦和　克行	GK			
豊田　賢治	7	3	4	14
加藤　雄星	1	4	0	5
前田　誠一	3	3	2	8
中川　善雄	0	0	0	0
佐藤　良彦	0	0	0	0
永島　英明	0	2	1	3
岩本　真典	3	4	3	10
森本　彰宏	0	0	0	0
太田　芳文	3	0	5	8
濱口　　靖	GK			
秋山　通雄	0	0	0	0
小林　貴幸	1	0	0	1
東　　俊介	3	2	2	7
石原　秀久	GK			
猪妻　正活	2	5	5	12
窪小谷貴活	0	0	0	0
宮﨑　大輔	8	4	4	16
計	31	27	26	84

【広島メイプルレッズ】

	①	②	③	計
高森　妙子	GK			
土屋　友美	0	1	2	3
樹山亜以美	0	0	0	0
青戸あかね	1	6	3	10
大前　典子	2	4	4	10
河本千寿子	0	1	1	2
林　五　卿	3	4	0	7
菅野　喜恵	0	0	0	0
坪井　美帆	2	0	0	2
呉　成　玉	2	9	5	16
坂口　絵美	0	0	0	0
浅井友可里	GK			
杉本　絵美	0	3	4	7
石山亜希子	7	1	0	8
金　鎭　順	9	9	11	29
計	26	38	30	94

（注）○数字は試合順

第30回日本ハンドボールリーグ
レギュラーシーズン日程表（第1週～11週）

週	月日（曜）	開催地	会場	1部男子		女子		2部男子	
				時間	組合せ	時間	組合せ	時間	組合せ
1	9月3日（土）	神奈川	横浜文化体育館	16:00～	大崎電気×ホンダ	14:00～	広島メイプルレッズ×オムロン		
	9月4日（日）	神奈川	横浜文化体育館	15:00～	大同特殊鋼×湧永製薬	13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×北國銀行		
		徳島	徳島市立体育館	13:00～	トヨタ車体×ホンダ熊本				
2	9月10日（土）	東京	駒沢屋内球技場					14:00～	HC東京×トヨタ自動車
		石川	金沢市総合体育館	15:00～	ホンダ×トヨタ車体	13:00～	北國銀行×HC名古屋		
	9月11日（日）	福島	本宮町総合体育館	14:00～	大崎電気×トヨタ紡織九州				
		栃木	栃木市総合体育館			13:00～	広島メイプルレッズ×ソニーセミコンダクタ九州		
		愛知	枇杷島スポーツセンター	14:30～	大同特殊鋼×ホンダ熊本				
3	9月17日（土）	福井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×トヨタ自動車
		愛知	知立市福祉体育館	14:30～	トヨタ車体×大崎電気	12:30～	HC名古屋×ソニーセミコンダクタ九州		
		三重	鈴鹿市体育館	14:00～	ホンダ×ホンダ熊本				
		宮崎	小林市市民体育館	18:30～	湧永製薬×トヨタ紡織九州	16:00～	オムロン×北國銀行		
4	9月23日（金）	山梨	小瀬スポーツ公園体育館			13:00～	オムロン×HC名古屋		
		広島	湧永満之記念体育館	14:00～	湧永製薬×トヨタ車体				
	9月24日（土）	埼玉	三郷市総合体育館	14:00～	大崎電気×ホンダ熊本				
		愛知	豊田合成（株）健康管理センター			15:30～	広島メイプルレッズ×北國銀行	13:00～	豊田合成×北陸電力
		佐賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	14:00～	トヨタ紡織九州×大同特殊鋼				
5	10月1日（土）	愛知	豊田合成（株）健康管理センター	15:30～	ホンダ×トヨタ紡織九州			13:00～	豊田合成×トヨタ自動車
		福岡	福岡市民体育館	16:00～	湧永製薬×ホンダ熊本	14:00～	オムロン×ソニーセミコンダクタ九州		
	10月2日（日）	山形	東根市民体育館	15:00～	大同特殊鋼×トヨタ車体	13:30～	広島メイプルレッズ×HC名古屋		
6	10月8日（土）	宮城	大和町総合体育館	13:30～	湧永製薬×ホンダ				
		広島	東区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×北國銀行		
		熊本	熊本県立総合体育館	15:40～	ホンダ熊本×トヨタ紡織九州	14:00～	オムロン×HC名古屋		
	10月9日（日）	愛知	枇杷島スポーツセンター	14:30～	大同特殊鋼×大崎電気				
7	10月14日（金）	愛知	知立市福祉体育館	19:00～	トヨタ車体×トヨタ紡織九州				
	10月15日（土）	埼玉	三郷市総合体育館	14:00～	大崎電気×湧永製薬				
	10月16日（日）	福井	大飯町総合運動公園体育館	15:00～	大同特殊鋼×ホンダ			13:00～	北陸電力×HC東京
8	11月3日（木）	愛知	東海市民体育館	17:00～	大同特殊鋼×トヨタ車体				
		高知	高知県民体育館	13:00～	湧永製薬×ホンダ熊本				
		佐賀	神埼中央公園体育館	11:00～	トヨタ紡織九州×ホンダ				
	11月5日（土）	愛知	半田市体育館	13:30～	トヨタ車体×ホンダ	11:00～	HC名古屋×広島メイプルレッズ		
		鹿児島	ソニーセミコンダクタ九州（株）体育館			14:00～	ソニーセミコンダクタ九州×オムロン		
	11月6日（日）	愛知	豊田合成（株）健康管理センター					13:00～	豊田合成×北陸電力
		佐賀	神埼中央公園体育館	14:00～	トヨタ紡織九州×大崎電気				
		熊本	八代市総合体育館	14:00～	ホンダ熊本×大同特殊鋼				
9	11月12日（土）	埼玉	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00～	大崎電気×トヨタ車体				
		広島	湧永満之記念体育館	14:00～	湧永製薬×トヨタ紡織九州				
		熊本	山鹿市総合体育館	16:00～	ホンダ熊本×ホンダ				
10	11月19日（土）	愛知	知立市福祉体育館	14:30～	トヨタ車体×湧永製薬			12:30～	トヨタ自動車×豊田合成
	11月20日（日）	東京	駒沢屋内球技場					16:00～	HC東京×北陸電力
		富山	三協アルミスポーツセンター "サンアリーナ"	12:00～	大同特殊鋼×トヨタ紡織九州				
				14:00～	大崎電気×ホンダ熊本				
11	11月23日（水）	埼玉	彩の国くまがやドーム	14:00～	大崎電気×大同特殊鋼				
		三重	鈴鹿市体育館	14:00～	ホンダ×湧永製薬				
		沖縄	沖縄県総合運動公園体育館	13:30～	トヨタ紡織九州×ホンダ熊本				
	11月26日（土）	愛知	枇杷島スポーツセンター	13:00～	トヨタ車体×トヨタ紡織九州				
				15:00～	大同特殊鋼×ホンダ				
	11月27日（日）	大阪	大阪市立住吉スポーツセンター	13:00～	湧永製薬×大崎電気				

◎ JHL ホームページにチーム情報、全日程、会場案内を掲載しています。

http://www.jhl.handball.jp/

http://www.jhl.handball.jp/i/（i-mode 対応用）

女子ナショナルチームの初外国人監督に期待

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

北京オリンピック参加国選出に世界予選会を導入した新方式が決まった。大筋は03年９月、神戸での国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）理事会で決まっていたものだが、その後、各大陸連盟との調整に手間取っていた経緯がある。

詳細は省くが、日本としては大陸枠「１」のアジアからストレートに北京を目指すことがベストだろうし、より早道と言えるだろう。

さて、その北京オリンピックへ向けて日本協会は、女子代表監督に初めて外国人を迎えた。ご存じオランダ出身のベルト・バウアー氏だ。

就任早々、韓国で開かれたギョンナム・アナズウィルカップにコーチとして帯同、いろんな角度から戦いを分析したようだ。

当面の契約は12月にロシアでの世界選手権までだが、延長できるような結果を期待したい。

彼の選手、指導者としての経歴は素晴らしいものがある。選手としては国際試合400試合出場しているし、指導者としてはオランダナショナル、ジュニアを率いて世界選手権に３度出場している。トップレベルはもとより、若手育成にも精通していると言われる。レベルアップには若手の育成と強化は欠かせない。そういった面からすれば、最適な人材と言えるのではなかろうか。

韓国に遠征した選手たちの印象もよさそうだ。「分かりやすい指導」とか「練習メニューが理解しやすい」などの声が聞かれる。

一般的には指揮官が代わった時点は、なんの競技にしろ新鮮なイメージがチームを包むし、選手個々も刺激を受ける傾向がある。ただ、日本人と外国人を比べると、外国人の方が結果には結びつく確率は高いようだ。

昨年は早船愛子選手がいるデンマークの１部リーグＧＯＧの監督を務めており、日本人の性格、プレーもある程度はつかんでいることだろう。そうした面でも今回の人選はいい方向性が見えてくる可能性が高いと思う。

７月下旬の今シーズン初のビッグゲーム全日本実業団選手権も視察に訪れたし、ここである程度のナショナルメンバーの選考や日本の各チーム、個人の戦い、プレーぶりも見極めたことだろう。

伝えられるバウアー監督の指導のベースは、日本人の特性を生かしたスピードのようだ。確かにヨーロッパ勢と比べると、体格面では劣ることは明白。それをカバーするためのスピード重視だろう。

クイックスタートが世界の主流だけに、ＧＫから早い球出しも求められそうだし、サイドプレーヤーの存在が大きくなるはずだ。

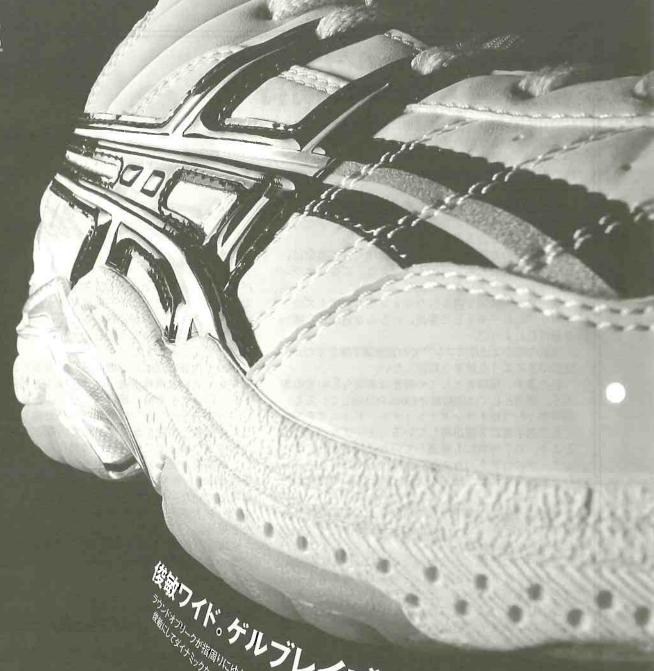
初めて代表に選ばれて韓国遠征に参加した広島メイプルレッズの大前典子選手は「積極性を強調したし、トレーニングも明確。練習が楽しかった」とすっかり“バウアー・イズム”に取り付かれた感じだが、こうした声は多くの選手から聞かれている。

世界選手権までに残された時間はそんなに多くはない。短期間でどれだけチームを強化し、ロシアで結果を残せるか。オリンピックはなんと言っても「ふた昔」出場していない現状を、今度こそ打破しなくては、日本のハンドボールはファンから忘れられてしまう危機だと思う。

指揮官の手腕も期待されるが、その豊富なキャリア、ノウハウを選手たちに早く植え付けてもらえることを楽しみにしたい。個人の技量を高めるとともに、チームワークや戦うハートも重視するバウアー監督が、どんな指導で「ニッポン」を再生させてくれるか。ハンドボールファンならずとも注目していることは間違いない。

とくに「初の外国人指導者」ということで、多くのメディアも注目している。今こそ積極的にアプローチしていくべきだろう。せめて日本リーグ所属チームを巡回訪問して方針を説明すると同時に、練習を視察するなどしてもらいたい。また、各メディアとの懇談も行うなどの露出も真剣に考えるべきだろう。こうした努力によって選手もまた刺激を受けることになるはずだ。注目されている今こそが絶好のチャンスである。逃す手はない。

俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE
THH513 ¥12,600（本体¥12,000）
カラー：0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト
サイズ：23.0～29.0・30.0cm

0490

5001

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。（ ）内は消費税抜きの本体価格です。
http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

NTS2005報告

NTSコーディネーター　田中　茂

今年度も沖縄県をかわきりにＮＴＳも本格的にスタートをきりました。今後とも皆様方のご理解とご指導をお願い申し上げます。6年目を迎えたNTSですが、すでに皆様もご存知だとは思いますが、6月末から7月はじめに行われましたアジアユース選手権大会において、男子は3位、女子は準優勝（ユース世界選手権出場権獲得）と将来につながる好成績を残すことができました。このヤングジャパンを支えている多くの選手がNTSにより発掘された選手たちであり、NTSの重要性を再認識できたのではないかと思います。

今月はNTSブロックトレーニング・センタートレーニング推薦についてお知らせいたします。

2005年度ブロックトレーニングへの推薦について

1. NTSの趣旨（NTSはハンドボールの普及・発展のシステムです。）
   将来日本の代表選手として世界と戦うことができる選手の発掘と育成指導者への情報提供及び指導者の育成

2. アンダーナショナルチーム代表選手選考過程

過程	内容
各都道府県協会	規定人数をブロックトレーニングに推薦
↓ ブロックトレーニング	トレーニング実施後、推薦選手選考審議会に規定人数を推薦
↓ センタートレーニング審査会	絞込み（2005年度　50名→30名）
↓ センタートレーニング	トレーニングを実施しながら、強化指定選手を選考
↓ 強化指定選手	将来の代表候補選手として各年代10名前後を選出（1年ごとに見直し、入れ替え）
↓ 代表チーム強化合宿	原則的に該当年代の全強化指定選手を招集
↓ 国際大会	強化指定選手の中から随時入れ替え大会へ

3. センタートレーニングへの推薦基準
   第1推薦基準
   ・日本ハンドボール協会、強化部会から推薦を受けている選手
   第2推薦基準
   ・センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手
   ・センタートレーニング運動能力的特長基準を2項目以上、上回る選手
   第3推薦基準
   ・技術戦術的特長を有する選手
   ・その他の理由で推薦に値する選手（左利き、リーダーシップ、①②はクリアーしないがクリアーに近い選手……など）

4. 各都道府県協会におけるブロックトレーニングへの推薦について
   ブロックトレーニングへの推薦は必ずしも上記の選考基準をクリアーしている必要はありません。
   ただし、推薦選手選考会における選考基準を考慮し、推薦理由を明確にして推薦してください。
   特徴のある選手、一芸に秀でる選手を推薦してください。

5. 各ブロックにおけるセンタートレーニング審査会への推薦について
   各ブロックにおける推薦は、NTSスタッフ（技術委員長、運営委員、コーディネーター、中体連委員、高体連委員、インストラクター）4名以上で話し合い、技術委員長が責任を持って行います。

6. センター推薦基準

		参考（センター推薦基準）			
		高校男子	高校女子	中学男子	中学女子
形態	身長	185cm	170cm	180cm	167cm
	体重				
	利き手				
運動能力	30m走	4.02sec	4.55sec	4.22sec	4.68sec
	立ち五段とび	13.64m	11.19m	12.57m	10.72m
	ハンドボール長座投げ	26.40m	19.22m	25.60m	15.82m
	背筋力	191kg	136kg	171kg	109kg
	握力	58kg	40kg	53kg	37kg

推薦理由

① センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手
② センタートレーニング運動能力的特長基準を2項目以上、上回る選手
③ 日本ハンドボール協会、強化部会から推薦を受けている選手（強化指定選手・アンダーナショナル候補選手）
④ 技術戦術的特長を有する選手
⑤ その他の理由で推薦に値する選手
（左利き、リーダーシップ、①②はクリアーしないが基準に近い選手……など）

指導者武者修行と今後の活動

ヨーロッパでの活動総括

家族を伴って所属のない「ハンドボール移民」がどの程度の活動が出来るか、大変不安を抱えての渡欧であったことに間違いありません。しかし、以前掲載させて頂いたようにハンドボールが生活の一部である彼らにとって、遠い東の国からきた不思議な訪問者には大変興味があったらしく、私の活動とは別の形でハンドボールに携わった家族ともども、いろんな場面で支援・協力して頂きました。

ハンドボールで生計を立てている人が全てではありませんが、ハンドボールがいかに人々の生活に入り込み、生きがいになっているか、今回改めてその「懐の深さ」に驚かされました。

感じたこと（ヨーロッパの脅威）

５月末をもって、04～05シーズンは終了しましたが、フレンスブルグの例で言えば、６月第１週からデンマーク各地からの招待試合に招かれ、デンマーク・クロアチア・ポーランドの各代表メンバーは、ヨーロッパ選手権の予選に召集され、休暇中もコーチングスタッフから提示されたフィジカルトレーニングを消化しながら、７月末からの新シーズンのスタートに備えます。ここまで書けばお分かり頂けると思いますが、とにかく、世界のトッププレーヤーというのは怪我や故障をともなうリスクを負いながら常に「戦っている」現場に身を置いており、そのこと自体が「強い選手」を生み出していると言えるのではないでしょうか。

エンターテイメント

ブンデスリーグの中でも、キール・フレンスブルグ・レムゴ・グンメルスバッハ・ノルドホルンあたりは年間シートが完売になるほど、盛況を極めております。ただし、エッセン・バラオ・グロースバルスタットなどは選手に数ヶ月サラリーを支払えない状況に追い込まれています。代表コーチの冨本さんとエッセン：フレンスブルグのゲームを観戦しました。エッセンのホームコートに首位争いをしているフレンスブルグが登場するわけですから、地元エッセンファンにとっても上位チームへの「嫌がらせ」が出来る格好の機会であったわけです。であるにもかかわらず、内容は一方的、観客席も空席が目立つというありさま。フレンスブルグやキールのホームコートで味わう「エキサイティング」は結局体験出来ずじまいでした。

何が問題なのか詳細については知る由もありませんが、ゲームの勝敗はもちろんですが、それ以上に必要なのは「お客さんを満足させるサービス」がコート上とコート外から提供されなければ厳しい現実を抱えることになってしまうということです。ちなみに未払い分のサラリーは地方自治体が補填するそうなので、選手の生活は保障されているようです。（このあたりのサポートも羨ましい限りです。）

今後の活動

５月末のシーズン終了後に帰国し、トヨタ車体ハンドボール部総監督として日本の選手たちと汗を流すことが出来るようになりました。今回収集した情報を生かしながら新しいチームから何かしら日本のハンドボール界にメッセージを発信できればと考えています。

また、今回構築した人間関係を今後も継続させ、常に新しい情報をヨーロッパから収集し、日本の子供たちに「世界を観て触れ合う機会」を提供できればと考えています。

シリーズまとめとして

日本の中にいれば気が付かないことも、思いきって一歩足を踏み出し日本を観てみると、ヨーロッパと日本のお互いの「素晴らしさ」を再認識することができ、本当に有意義な活動が出来ました。今後は一つでも多くのチーム、一人でも多くの選手達の力になれるような場に身を置き、ハンドボールの素晴らしさを伝えられたらなと思っています。

なにぶん文才もなく、読み苦しい点も多々あったかと思いますが、それも今回で最終回。少しばかりの新しい情報と引き換えにご容赦頂けたら幸いです。有難うございました。

（６回に渡った酒巻清治さんの連載も今号で最終回となります。長い間有難うございました。今シーズンからトヨタ車体で活動される酒巻さんのご活躍を期待いたします。編集委員会記）

VIP ルームにて：私の横がご存知 Wolfgang Gutschow 氏、その横は皆さんご存知、Dagur Sigurdsson、その横は Dagur のチームマネージャー

ハンドボールのゴールキーパーにおける動き出しとパフォーマンス能力の関係

栗山 雅倫（東海大学）

研究目的

ハンドボールのゴールキーパーは、ゲームにおける重要な役割を担うものの、指導理論が一般化されていないのが現状である。そこで本研究は、今後、必要になると思われるゴールキーパー指導理論の体系化を目指した。基礎研究的な段階のスタートとし、ゴールキーパーの動作を解析、特に“動き出し”の局面に特化して、効率的な動きについて検討し、ゴールキーパー指導の一資料とすることを目的とした。

方　法

分析の方法として、三次元DLT法を用い、バイオメカニカルな解析を行った。解析には、Frame-DIAS（株式会社ディケイエイチ製）を用いた。

被験者は、東海大学女子ハンドボール部のゴールキーパー２名（Y.K:160cm、70kg／M.K:165cm、60kg）とし、コートプレーヤー（東海大学女子ハンドボール部員）が、９mから４隅へランダムに放つステップシュートに、「なるべく逆をつかれないように動く」という運動課題でキーピングを行った。逆をつかれずに動けたキーピングパフォーマンスが、各コーナー５本以上になった時点で実験を終了した。図に、運動課題とした４コーナーへのキーピング例を示す。

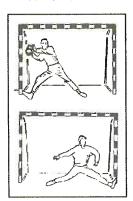



図　４コーナーへのキーピング例

分析対象はコートプレーヤーからみて、左上のコーナーへのキーピングとしたが、不自然な動きを極力抑制するため、実験段階で、被験者へは伝えなかった。また、今回解析対象としたデータは、試技５回のうちの１回を無作為に抽出した。

なお分析にあたって、被験者のパフォーマンスレベルを、被験者「Y.K」を大学トップレベル、被験者「M.K」大学一般レベルとして定義した上で、比較検討を行った。

算出項目は、①ボールリリースから、キーピング目的地点（ミートポイント、もしくはボールの軌跡とキーピングの手が交差するポイント）への到達時間と変位、スピード②ミートと逆方向への動きの変位、③動き出しからキーピング目的地点への到達時間と変位、スピード、とした。

結　果

①リリースから目的地点までの変位

ボールをミートするポイントの目安として右手先が上げられるが、初期的な位置に個人差が大きいため、比較には適さない。したがって目的地点到達時の胸骨を対象とした結果、移動距離の割合（移動距離÷身長）は大きく変わらなかった。

②ミートと逆方向への動き

ミート方向への動きと逆方向への動きは、リリース時の状態から手先、肘、肩、胸骨が、鉛直成分で下向きの動き、水平成分でコートプレーヤーから見て右向きの動きになることと定義した。また、その際リズムを取るための細かい動きは無視した。

リリース時の各ポイントの座標を０として、逆方向への変位と、再びリリース時の座標地を超えるまでのリカバリータイムについて示した。ここから、Y.Kがマイナス方向への動きが小さく、リカバリータイムも短いことがうかがえた。

また、リリース時から、目的地点到達までの胸骨と右手先の軌跡をあらわすと、両被験者間の沈み込みの差異が明確に表れていた。

③動き出しからキーピング目的地点への到達時間

ここでの「動き出し」の定義として、両被験者とも、ミート方向へ向かう前に、ミート方向への逆の動きが入ることから、胸骨が大きく動き出すポイントとした。

ミートと逆側への動きの大きかった被験者M.Kの方が、目的地点までの到達時間は長かった。

論　議

①ミートと逆側の動きの弊害

大きい動き出しをするとき、予備動作を利用しようとする。理由としては、高いパワー発揮において、伸張腱反射の活用などが有効なことを我々は経験的に身体感覚として持っていることなどが上げられる。

本研究において、ミート方向と逆側への動きが、動き出しからミートまでの所要時間を長くすることに影響を与えていることがうかがえる。沈み込みによる、移動距離の延長も所要時間の延長に影響するといえるが、逆動作開始からリカバーまでにかかる時間が大きく影響していると考えられる。

②予備動作からみる準備局面のベターな考え方

運動学的に、主要局面に入る前の段階を準備局面と定義する以上、沈み込みをどちらの範疇に属させるかは議論があるところである。

いずれにせよ、いわゆる予備動作的なミート方向と逆への動作は、本研究においてネガティブな要素が高いことがうかがえる。一方、予備動作を伴った場合において、ミート方向への最大スピードはより高いものを示しているが、ミートポイントまでの到達時間において、それをカバーするほどのメリットを見出せない。

実際にはより多くのパラメーターを用い、動きのスピードやパワーのより具体的な検討は必要と思われるが、少なくとも、「より早く」ということが運動課題に含まれる場合、沈み込みを予備動作的に行うのではなく、あらかじめ「沈み込み」の状態を作っておくことがベターな準備局面であることが示唆される。

まとめ

結果、及び考察から以下の成果と課題を示唆する。

1）「より早く」という運動課題に対して、予備動作を伴うことはネガティブに影響する。

2）より大きな移動距離を「予備動作」によって確保できることは考えられるが、ハンドボールのゴールキーパーの物理的諸条件から見て、予備動作は特に必要ない。

3）予備動作を伴う動きは、より動きの時間を長くし、パフォーマンスにネガティブな影響を与える。

4）ベターな準備局面としては、あらかじめ「沈み込み」の状態を作っておくことである。

以上のように、準備局面の検討は、必要であることが示唆される。本研究では二人の被験者を用い、典型例の比較検討を実施したが、本来統計的な比較が可能な被験者数と、分析試行数は確保されていない。

今後、より多くのパラメーターによる検討・分析・試行数を増やすことによって、今回の結果から予測される知見を実証することが必要であり、それによって、ハンドボール、ゴールキーパー指導の一資料とすることを課題としたい。

チームマネジメントとリーグマネジメント

講師　原田 宗彦氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

前回のおさらい

トップリーグを取り巻く現状は厳しく、企業所有型のトップチームの状況は更に厳しくなってきています。1989年企業所有型が8割あったトップチームが2004年には5割を切っています。今後チームが考えるべき事は企業への価値還元であり、企業との関わりは福利厚生からスポンサーシップへと移行し、チーム自身の意識転換とGMの重要性が要求されてきます。

GM（ゼネラル・マネージャー）の仕事

GMの大きな仕事は二つあります。一つはクラブマネジメント（営業担当）であり、もう一つはチームマネジメント（強化担当）です。競技力と経営力は表裏一体であり、これらを分割して考えることはできません。そしてスポンサーからの支援を受けるという観点からも地域密着は欠かせません。会場に多くのファンを呼び込むこと、チームに興味を持ってもらうこと、多くのスポーツ消費者を取り込むことこそがスポンサーへのアピールとなります。これら全てに関連しスポーツを如何に魅力的商品とするかをいつも考えているのがGMなのです。

スポーツと集客

事業としてのスポーツを考える際、収入と支出のバランスを考えなければなりません。収入には入場料収入、スポンサー、放送権料、ライセンス商品、後援会などが考えられ、支出には人件費、管理費、運営費などがあげられる。収入の中でも最も大きな割合を占めるのが入場料収入です。いかにしてファンに会場に足を運んでもらうか、そこから他の収入が派生し、生み出される。そのためにもファンは何を求めているのか、チームとファンの関わり合いを創造していかなければならないのです。

スポーツをマーケティングする

今日のスポーツは多様化し、するスポーツ、見るスポーツに大きく大別されます。しかしそれらは全く独立してはいない。スポーツを事業として考えた場合は見るスポーツに重点は置かれます。スポーツを見る人はコートの中、選手との一体感を求めているはずです。そのためにも地域密着、広報活動は欠かせません。今までのスポーツ事業は販売志向型でしたが、これからはマーケティング志向、つまりファン、地域が何を求めているかに主眼が置かれる。集客のキーワードは、①交換、②価値創造、③ファン・ロイヤリティーの向上、④地域との一体感である。集客のスキルとしての4P（商品、場所・時間、価格、プロモーション）も総合的に考えていかなければなりません。

スポーツプロダクトとは？

スポーツを商品とした場合、それはどの様な商品なのでしょうか。サービス商品、経験商品なのか？

中核要素としてはゲームフォーム（ルール・技術）、選手、用具、ピッチなどがあり、拡大製品としてはチケット、ビデオ、マスコット、プログラム、技術、統計、音楽などがあげられる。スポーツを商品と考える場合の困難さは生産と消費が同時性で、評価・比較が困難で、やり直しがきかず、マニュアル化がしずらいことである。これらの要因からGMには特別な能力が求められます。成功への条件はいかに不満を満足に変えるか、更に満足を感動に変えられるかにかかっています。

例えばアメリカにおいてはゲームそのものが商品

平成17年5月28日（土）、NTT麻布セミナーハウス（東京）において日本ハンドボール機構「チームマネジメント研修会」が開催されました。参加者は市原則之日本ハンドボールリーグ機構会長、山下泉同副会長、川上憲太日本リーグ委員長、各チームＧＭ等29名参加いたしました。

本年度第30回を迎える「日本ハンドボールリーグ」は「プロの試合、プロの運営」を目指し、昨年９月に開催されました「マネジメント・シンポジウム」に続き表記研修会を開催いたしました。基調講演は前回に続きまして原田宗彦氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）にお願いいたしました。今号では、その講演要旨を掲載いたします。講師略歴につきましては機関誌456号（2004・12月発行）を参照下さい。

（文責：機関誌編集委員会）

となっており、映画「ドッジボール」に代表されるアメリカンドッジボールなどは参考になるだろう。なぜスポーツを見に会場に足を運ぶのか。諦めず、日々新しい商品の提供を続けなければならない。

スポーツファンの理解

スポーツファンは何故、スポーツに時間、金、個人的エネルギーを投資するのだろうか。それは、楽しみや他の便益(ベネフィット）を得ることを目的として、運動やスポーツに参加したり、それに関する情報を得るためである。これらのファン心理を理解することなくスポーツビジネスは成立しない。また、ファンの感情である心配（神経質、不安)、楽しみ（最高の気分、幸せな気分、喜び)、誇り（自慢したい気持ち、得意な気持ち）も大切にしなければならない。更には、再度会場に足を運んでもらうための楽しみ、怒り、誇りといった感情にも訴えたい。

リーグ事業論：新しいリーグ運営

今、日本には多くのスポーツリーグが存在し、その存亡をかけて様々な取り組みをしている。それぞれのリーグには固有の問題もあるが、全てのリーグに共通した潜在的問題の方が大きい。例えばシーズン（なぜ３月に終了するのか？)、ゲーム（なぜ試合は週末なのか？)、ホームアリーナやスタジアムがない、ホーム＆アウェイ方式が定着しないなどである。これらの打破のためにいくつかのリーグが新しい試みを行っている。それらを紹介したい。

一つはバスケットボールの「BJリーグ」である。このリーグのコンセプトは「シングル・エンティティ」と呼ばれているもので、以下のような特徴を有する。①リーグが企業として単一の実体として機能している。②チーム間で収益が公正に分配されている。③リーグ会社がガバナンスを握っている。④チームは商品に対して独立の所有権を持っていない。⑤選手、監督及びコーチの獲得について各クラブ間に競争はない、などである。自治体の中には地域のチームを希望するところが多くあり、それらの地域をホームとして活動を行うのである。現在、BJリーグは2006年のバスケットボール世界選手権（埼玉）に向けても活動している。

同じく、リーグを会社組織にする試みとして「四国アイランドリーグ」が挙げられる。四国４県にチームを作り、監督、選手を配分してリーグ戦を行う。BJリーグとの相違点はプロ野球への選手の供給があり、独立リーグと呼ばれる。

現在日本で成功しているリーグはサッカーの「Ｊリーグ」である。とは言っても経営的に成功しているチームは少ない。Ｊリーグの活動は①パッション(情熱)、②ミッション(使命)、③ビジネス（経営）を３要素としてあげている。

最後に

チームとクラブが存続するための第一は「お客さんが来るか」という一語に尽きる。そのためには地域を巻き込んだ価値の創造、もう一度会場に足を運びたいというゲーム作りと運営が必要である。スポーツを運営するという活動は一年ごとに進化させ、変化させていかなければならない。ハンドボールというスポーツにあった最適のリーグ運営とは何かを考えながら活動して欲しいと思います。

原田氏の基調講演の後、日本リーグ加盟チームGMによる29回大会の分析と、30回大会へ向けて計画が発表された。発表の後、原田氏からアドバイスを頂き、下記オブザーバーとして参加された４名の方々よりアドバイスがなされました。

写真左より明治大学野球部監督川口敬太氏、バスケットボール女子リーグ機構五十嵐幸之輔氏、日本ラグビーフットボール協会熊木陽一郎氏、ホッケー日本リーグ機構鷲山裕吾氏。

WHM

アテネオリンピック（男子）の分析

ゲームの質が明らかに上達した

国際ハンドボール連盟（IHF）の機関誌であるワールド・ハンドボール・マガジン（WHM：年4回発行）には不定期で世界大会の分析が掲載されます。2004年3号には9月に開催されたアテネオリンピックの分析（PRCメンバーBengt Johansson氏とIHFレクチャーのDietrich Spate氏による）が掲載された。今号では、監修を指導委員長笹倉清則氏、東京学芸大学附属高校ハンドボール部の若尾彬君、荒井広倫君の翻訳により掲載いたします。なお、女子の分析、クロアチア監督インタビューにつきましては次号に掲載致します。

監修　笹倉 清則（指導委員長：日本女子体育大学）写真左
翻訳　若尾　彬（東京学芸大学附属高校ハンドボール部）写真中央
　　　荒井広倫（東京学芸大学附属高校ハンドボール部）写真右

主な傾向の概観

アテネオリンピックでの男子のトーナメントは間違いなく近年で最も面白い試合のひとつだった。速いプレーが今ではほとんどのチームでうまく確立している。全体のレベルも高く、私たち観客は面白いゲームを見ることができた。オリンピックトーナメントから引き出された結論は攻守の両方に関係している。「個人のトレーニングの質が著しく向上した」**"すべては個人である！"** このスローガンは多くの重要な傾向を要約している。

傾向1：個々のディフェンス力の向上

脚力・腕力の向上の結果として、攻撃的な、ボールを追うプレーが全体に表れ始めている。例えば以下のようなものである。

①多くのパス、特にポストへのパスがこれまでよりも断然多くカットされた。ディフェンスが攻撃をより正確に"読んで"いることで、結果として有効に攻撃に転じられた。

②速攻への攻撃的な守りがオールコートで有効に機能していた。

③人数の優劣があった時（6対5又は5対6）に、パッシブプレーのサインが出たらすぐにディフェンスはボールを支配するために攻撃的なディフェンスを始めた。

それぞれのチームはIHFとトレーナー達が共同して行ったルール解釈を利用して、ディフェンスに対する制限を軽減させた。この事はディフェンスプレーの向上に繋がった。以上のような個人のディフェンス力の向上は、もちろんディフェンス戦術という全体的な観点から見ても重要なものであった。

「個々のディフェンス力の向上は、ゲームの中での適応性のあるプレーとディフェンス戦術の基盤である」

傾向2：柔軟なスタイルのディフェンス

ひとつのディフェンスシステムのみしか使わないチームはとても少なかった。オリンピック優勝国クロアチアは相手によって、そしてゲームの進展によって、5－1・3－2－1・6－0とシステムを様々に変えた。しかし、より注目すべきことは、ゲーム中のディフェンスにおける計画的な多様性は、タイプの違ったプレーヤーを交代させることによっても生じるという事実である。この結果として、クロアチアの5－1ディフェンスでは左サイドのSpremがトップに出ているとき、主に攻撃的ディフェンスをした。その一方で、ポストのVoriがトップでプレーするときは主に守備的ディフェンスをした。

傾向3：個人の攻撃能力における質の向上

まず、この傾向はパスの範囲とその技術に影響した。

①様々なタイプの、時にはとても制限されたスペースでのバウンドパス（図1）が以前より多く使われた。

②ボレーパス（ジャンプしながらパスを受け取り、直ちにパスを出す）など状況に応じて速いパスが使われた。（図2）

③プレーヤーはしばしば片手でボールをキャッチし、直ちに1対1など特別なスタイルのプレーに移っていた。

④2対1の局面（45とサイド対サイドディフェンス）では、より創造的な種のパスがバックコートプレーヤーから出された。速いボレーパスは男女の試合両方に見られた。（図3）

⑤相手からのプレッシャーを受けながら

図1

図2

図3

のパスはより正確になっていて、プレーヤーは制限された範囲へもリスクのあるパスをした。（これからのディフェンス練習は十分にこの進展を理解した上で行われるべきであろう）

⑥速攻において一線へのロングパスはゴールキーパーよりセンターディフェンスから出されるほうが多かった。

ボールのあるなしに関わらず、1対1でのプレーがより攻撃的なディフェンスシステムに対して急激に重要性を増している。できるだけ多くのディフェンスプレーヤーをひきつけ、味方を自由にさせる特定の1対1のプレーは主にボールに合わせて守るディフェンスシステムへの攻めのきっかけとなる。

**傾向4：
プレーでの速いペースの維持**

まず記すべき重要なことは、以前の国際トーナメントより速攻や早いスローオフの成功が少なかったにもかかわらず、プレーのペースは速いままであったことである。1試合でのチームごとの攻撃回数は、平均58回であった。

これは主に次のような速い攻撃に伴う戦術的な効果のためである：

①より早く攻撃に移る事で相手のディフェンス・オフェンス専門プレーヤーの交代を防ぐ。

②パッシブプレーの警告などのルール改正によって、組み立てられたセットプレーを使った攻撃が行い辛くなった。

③速いペースでのプレーによって、相手に心理的・身体的なプレッシャーを与える。

一般的に以下の側面が速いプレーの戦術から観察された。

④第一線のプレーヤーによる個人での速攻や、第二線の複数のプレーヤーによる優位な人数でプレーする狙いでの速攻がより多く見られた。

⑤対照的に相手のディフェンスフォーメーションに対して、戦術的コンビネーションを用いてのセットプレー攻撃（二次速攻）はあまり使われなかった。

⑥速いスローオフを行ったチームは少なく（ドイツ、韓国、スペインなど）、しかもこれらは相手を驚かすために使われる傾向があった。近年では2003年のポルトガル世界選手権でドイツが行った連続的な早いスローオフは、このオリンピックでは見られなかった。

ではなぜ速攻の成功率が低かったのだろうか？　主な理由は個人のディフェンスプレーの向上にある。

⑦特にゴールが決まったあとの、ディフェンスの戻りが早くなった。

⑧ディフェンスへの戻りはより組織化され、かつより攻撃的に形成された。一人以上のディフェンスが攻撃的な速攻への守りをしていた。

⑨戻った後、ディフェンスフォーメーションはまず9メートルラインでセットされ、一人か二人のディフェンスが攻撃的に守っていた。その目的は、以前スピードを持って打たれていた速攻のバックコートからのロングシュートを防ぐことにあった。

⑩コートの中心に走って戻ることで、ますます多くのプレーヤーが積極的な勝負を行った。その目的は速攻を止めて、さらにはオフェンスファールさえも引き起こすことであった。

**傾向5：
個人のプレーや少人数でのプレーが攻撃戦術を支配していた**

多くのチームは、攻撃のきっかけとなるチームコンビネーションや動きの種類が少なくなってきたことが顕著に現れた。必然的に、個人技能の向上によって引き起こされた個人や少人数での攻撃が攻撃戦術を支配した。

ひとつの例は優勝国、クロアチアのセットプレー攻撃である。原則的に、ほとんどすべてのプレーがBalic（センター）とVoli（ポスト）の中心軸から始まった。Balicの印象的な1対1のプレーはうまくセンターディフェンスを引き出し、そのディフェンスを抜くこともたびたびあった。これにより生じたシュート・ポストへのパス・攻撃を外側へ広げるプレーなどは、個人プレーの質の向上により単純でもとても効果的な攻撃ができることのなによりの証明であった。（図4）

図4

**傾向6：
キーパーは、ディフェンスプレーヤーとの連携よりも個人能力がより重要となった**

現在も過去と同じようにチームの勝利はゴールキーパーの腕にかかっている。オフェンスの攻撃スタイルの向上、より多くの“フリーな”シュートの数（速攻やロング）、そして一般的に向上した個人の攻撃技術を防ぐためにはキーパーがより多くの責任を持つ事を意味する。ドイツ対スペインの準決勝で両キーパーの能力が際立っていたことがその例である。

新しい攻撃の要素

①ボールなしでのフォーメーションの切り替え（“ポスト落ちと上がり”）

今まで3－3攻撃から2－4攻撃に変化するのは、しばしば戦術的チーム攻撃やコンビネーションプレーとしてよく使われていた。その一般的な目的は2対1の数においての有利な局面をつくることである。

②相手ディフェンスの協調を崩し、エラーをひきおこす

しかしクロアチア、そして時には他のチーム（ハンガリーなど）のプレーヤーはボールを持っていないときに、他の戦術的目的のために動くのが見受けられた。特に以下が、頻繁に攻撃的ディフェンス（5－1、3－2－1、1－5ディフェンス）に対して行われていた。

③バックコートからの移動（3－3から2－4）、2－4から3－3にフォーメーションを戻す

センターと司令塔プレーヤーがよく攻撃に参加する、“落ちと上がり”の方法での攻撃は、例えば通常のコンビネーションを使った攻撃と違った戦術的目的として有効である。主な目的は相手ディフェンスの戦術的配置で常にゴールエリアとバックコートの間を動いている相手をスイッチするときにミスを引き起こさせることと、個々のプレーヤー又は少人数のグループにミスを引き起こさせるということである。当然これは攻撃する側がタイミング、場所、フォーメーションの的確な判断がなければならない。

私たちはこのようなプレーが将来にはもっと発達し、よく使われているだろうと信じる。

柔軟性のあるディフェンス

以下にあるディフェンスシステムの外観から５－１ディフェンスシステムがよく使われる傾向があることがわかる。

スウェーデン式６－０ディフェンスに将来性はあるのか。

疑いもない！　準優勝国ドイツはトーナメントで最もすばらしいディフェンスをしたが、スウェーデン式の６－０ディフェンスを使っていた。しかし、将来においてもこのシステムが成功するという保証はない。なぜなら、このシステムに対しての攻撃方法は絶えず向上しているからだ。以下の問題が６－０ディフェンスにははっきりと表れている。

①攻撃側は速いペースで攻撃している。

②特にバックコートからのプレーヤーがより精度の高いジャンプシュートをディフェンスの上から打つことができる。

③個人の技術が向上しているため、特にパスのバリエーションが増え、そして成功率の高い攻撃がポストを通してできる。

一般的にほとんど全てのチームが６－０ディフェンスの弱点をうまく利用することを練習してしまっている。最後に、他のチームに比べると、スペインは６－０ディフェンスを攻撃的な二枚目のディフェンスが行っていたことを記す。（図５）

図５

５－１ディフェンスはボールに合わせるか、人に合わせるか

５－１ディフェンスシステムは３－３から２－４攻撃のフォーメーションに対して、二つの異なったプレースタイルからなる。

①人に合わせて守るプレースタイル

トップディフェンスはバックコートプレーヤーの一人、あるいはゴールエリアに入り込むプレーヤーに集中して守る。（ロシアやフランス）

②ボールに合わせて守るプレースタイル

トップディフェンスは基本的には決まったポジションにいて、ボールのあるサイドでプレーする。クロアチアはドイツとの決勝で５－１ディフェンスをおこなった。たとえセンターからのパスのあとでさえ、トップはボールに集中しつづけ、ポジションでずっとプレーしていたことが明確に示されている。もちろん攻撃側は簡単にボールを逆サイドにパスすることができる。これによりセンターディフェンスとそれぞれの二枚目ディフェンスはより守備的にディフェンスすることが多い。

柔軟性のある ディフェンスの向上

ディフェンス戦術においての向上は次のように要約できる。

①６－０と５－１ディフェンスは今のところ最もよく使われるシステムである。

②今の傾向から将来には５－１ディフェンスにより重点がおかれるだろうことがわかる。

③クロアチアがしたような３－２－１ディフェンスではプレーヤーは特別の技術を必要とされる。人に合わせた３－２－１や１－５ディフェンスフォーメーション（韓国など）は一般的に今日強力なポストプレーヤーを止めることはできない。

④プレースタイルを変え、有効なディフェンスを始めるには異なったタイプのプレーヤーがかぎとなる中心的なポジション、例えば５－１ディフェンスシステムにおいてのトップディフェンスなどにおかれなければならない。

⑤ゲーム中、柔軟にディフェンスフォーメーションを変更する。

上に述べたうちの最後の点は特に守備的なプレーの向上の点で興味深い。例えば、クロアチアは５－１と３－２－１ディフェンスシステムの間で柔軟に変化した。フランスとスペインもまた、６－０と５－１ディフェンスを共に使った。攻撃スタイルの向上と言う点から、将来チームがひとつのディフェンスフォーメーションやプレースタイルのみ使うという可能性は低いだろうと思われる。

実際的な結論

次の結論はこれからの青年と中高生のトレーニングにおいて考慮されるべきだ。

①より集中的な個人のディフェンストレーニングはディフェンスシステムをより柔軟にするだろう。

②青年のトレーニングは全ての状況と段階における積極的で柔軟なディフェン

スプレーの向上に努めるべきである。これは今日のゲームにおいて、特にオールコートの速攻に対するディフェンス又は、ディフェンスが人数的に劣っている場面（５対６）において基本的な必要事項だからである。

③速いプレーが発達しているため、オフェンスやディフェンスのどちらかのみ専門にするというプレーヤーはいないほうがよい。

④効果的なオールコートの速攻は今日のゲームではプレーヤーに基本的な必要事項を残しており、それゆえ、速攻に対する攻撃的なディフェンスはより重要になってきている。

⑤攻撃側の技術能力の向上もまた考慮されるべきだ。例えば、

—相手からのプレッシャーを受けている中での速いパス。

—新しい、いろいろな攻撃方法の向上。例えば、全ての状況においてボールを片手でキャッチすることなど。

—創造的なバウンドパス。（重要！）

—速攻でのロングパス。今日全てのディフェンスプレーヤーは速攻の第一波の味方への長いパスを送れるに違いない。

⑥攻撃戦術ー個人の攻撃プレーの向上は確かに必要なことである。しかしながら、将来戦術的なコンビネーションに集中することが必要になるだろう。特に５－１と３－２－１ディフェンスシステムに対する戦術的攻撃コンビネーションは向上されるに違いない。なぜなら、ディフェンスはますます正確に攻撃を読むことができるようになってきているからである。

表１　ベスト４チームによる戦術比較

クロアチア	①個人の高い攻撃能力 ②効果的なプレーのシフト —３－３攻撃 —主に攻撃のきっかけとなるセンターーポストの軸 ③攻撃的ディフェンスに対しての連続した動作やフォーメーションの変化（“落ちと上がり”）
ドイツ	①攻撃するきっかけのプレー ②主にポストを通した少人数での攻撃（Schwarzer を起点に） ③時にはエラーが多いと思われる個人の攻撃
ロシア	①主にセンターからの変化とシフトプレー —２－４攻撃 —３－３攻撃 ②ポスト（Torgovanow）を通したグループ戦術 ③個人攻撃
ハンガリー	①高い個人能力（Perez, Nagy） ②変化に富んだグループ戦術 ③攻撃的ディフェンスに対してのフォーメーションの変化

表２　上位入賞チームのディフェンスシステムの比較

ロシア	①５－１man-basedスタイル
ハンガリー	①多様なトップディフェンスを持つ５－１ —Pastor：より守備的に —Prem：より攻撃的に ②６－０通常は守備的なman-based
フランス	①スウェーデン式６－０ ②多様なトップディフェンスを持つ５－１ —Gille：より守備的に —Richardsson：個人的で攻撃的なプレー
スペイン	①６－０攻撃的ball-based ②５－１極端にball-based —トップディフェンスが両45の両方を見る（予想してのプレー） —ボールと逆サイドでは極端な数での劣勢（１対２の状況）
クロアチア	①ゲーム中に変化する多様なトップディフェンスを持つ５－１ —Vori：より守備的に（７～９メートル） —Kalep と Sprem：より攻撃的に ②３－２－１ユーゴスラビアスタイル —相手によって守備的、攻撃的と変わる —ゲーム中の戦術的交代 —２－４攻撃に対して極端にボールに寄る ③６－０ —ゲーム中の戦術交代
ドイツ	①スウェーデン式６－０ —相手によって変化する（攻撃的な Stephan） —攻撃的な二枚目ディフェンス（左45に対して Kerman） —センターにおいて極端にボールに寄る ②５－１ —ディフェンス専門プレーヤーとの交代が不可能だったときに周期的に用いられる

厚生労働大臣杯

平成16年12月18日（土）・19日（日）：姫路市立中央体育館

第2回日本車椅子ハンドボール競技大会

障害者と健常者がともに車イスに座ってプレーする「厚生労働大臣杯第2回日本車椅子ハンドボール競技大会」が昨年の12月18・19日の2日間、姫路市立中央体育館で開催された。

1日目は予選リーグ13試合が行われ、選手たちは車イスとボールを昨年よりも技術的には巧みな操作で熱戦を展開した。また、2日目は決勝トーナメントの6試合が行われた。ただ今回2チームの棄権が出たことは残念であり、今後、参加チームの拡大の必要性を感じた。予選リーグでは、大学生のサークルや、大学OBらのグループなどのチームが対戦。選手たちは、車イスを自在に操作しながら相手をすばやくフェイントでかわしたり、小刻みにスピードパスを回すなどして得点の醍醐味を満喫していたようだ。前年度優勝チーム宮城フェニックス（宮城県）の今野育男主将は、「車イスの操作は、慣れるまで時間がかかりましたが、スムーズに操作できるようになって、動きが活発になり、パスもうまく回るようになって面白くなった」と話す。大会は前回優勝の宮城フェニックスが連覇を果し、王者の風格をみせた。昨年度敗退の近畿福祉大は、口惜しさをバネに猛特訓を積み、順調に勝ち上がり、決勝戦にコマを進めた。決勝戦では、地力に勝る強豪・宮城フェニックス（東北福祉大OB主体）エース下田・三浦には及ばなかったが、田原祐樹主将は「チームワークに磨きをかけ、準優勝という結果を残せた。次は優勝を目指したいです」と。涙はない。正直いうと、素人ばかりでよくここまで来たなと思う。持ち前の激しいアタックで宮城の突進を何度も体を張って止めた。しかし、ミスを連発し、自分たちで攻撃の芽を摘んだ。個人的な力の差は感じるが、大事なところでの差が点差になった。常に上を意識して目指してほしい。また、第3位には同大学のバスケットジャズクラブが入り2・3位の顔ぶれが変った。さらに、次回は男女種別を設けることも必要課題となった。

最後に、今回の大会は地元姫路広陵ライオンズクラブ（小林聰会長）結成30周年記念事業としてお願いし、物心両面にわたるご支援を賜り、ご協力頂いたことに厚くお礼を申し上げ謝辞としたい。

（大会会長　小西博喜）

3位決定戦

近畿福祉大ジャズ　24（15-10, 9-8）18　新潟朱鷺

両者立ち上がりからセンターライン附近の攻防が続き、点差が開かずー進一退。それでも近畿福祉大ジャズは、前半5点差のリードを守り、優位に立った。後半も近畿福祉大ジャズは、前半のリードに助けられ、勢いに乗って勝利をおさめた。（寺谷司郎）

優勝戦

宮城フェニックス　34（15-10, 19-9）19　近畿福祉大

立ち上がりは、連覇をねらう宮城フェニックスの試合運びに慎重さがみられ、互角のスタート。しかし、宮城フェニックスの落ち着いたボール回しとシュートの確実さにより着実に加点、一方的なゲームとなってしまった。近畿福祉大はノーマークのロングシュートが決まらず、ゴール前に攻め込んでからミスシュートを重ね、リズムに乗れず宮城フェニックススの攻撃に拍車をかける流れとなった。宮城フェニックスは攻守のバランスがよく、帰陣も速く、大きなミスが少なく、近畿福祉大にツケ入るチャンスを与えなかた。宮城フェニックス2連覇、王者の風格を印象づけた。（青田義昭）

12月18日（土）予選リーグ

▼Aブロック	宮城フェニックス（宮城）	39-7	ファインクライフ大阪（大阪）
	近畿福祉大（兵庫）	38-9	ファインクライフ大阪
	宮城フェニックス	33-5	小西ファイターズ（岡山）
	近畿福祉大	34-4	小西ファイターズ
	ファインクライフ大阪	26-21	小西ファイターズ
	宮城フェニックス	30-26	近畿福祉大
▼Bブロック	新潟朱鷺（新潟）	26-22	近畿福祉大ジャズ（兵庫）
▼Cブロック	オアシス（大阪）	17-5	神戸ドルフインズ（兵庫）
	オアシス	18-18	ドリーマーズ（京都）
	オアシス	21-14	大阪体育大（大阪）
	ドリーマーズ	31-7	神戸ドルフインズ
	大阪体育大	18-11	神戸ドルフインズ
	ドリーマーズ	27-12	大阪体育大

Aブロック
順位　①宮城フェニックス（3勝）
②近畿福祉大（2勝1敗）
③ファインクライフ大阪（1勝2敗）
④小西ファイターズ（3敗）

Bブロック
順位　①新潟朱鷺（1勝）
②近畿福祉大ジャズ（1敗）

Cブロック
順位　①ドリーマーズ（2勝1分）
②オアシス（2勝1分）
③大阪体育大（1勝2敗）
④神戸ドルフインズ（3敗）
①②は得失点差による

12月19日（日）決勝トーナメント

▼1回戦	近畿福祉大ジャズ	21-10	オアシス
	近畿福祉大	26-25	ドリーマーズ
▼準決勝	宮城フェニックス	20-15	近畿福祉大ジャズ
	近畿福祉大	26-19	新潟朱鷺

スコアールーム ①

男子44回・女子35回西日本学生ハンドボール選手権大会

期　日：平成17年5月28日（土）～6月1日（水）
会　場：福岡市市民体育館ほか

【男　子】

■予選リーグAブロック

中部大	44（23－4、21－7）11	愛媛大
京産大	19（12－10、7－9）19	福教大
中部大	30（16－9、14－9）18	福教大
京産大	31（17－6、14－7）13	愛媛大
中部大	30（15－5、15－7）12	京産大
福教大	36（20－6、16－4）10	愛媛大

■予選リーグBブロック

桃山大	23（11－7、12－7）14	近畿大
広経大	27（14－9、13－11）20	沖国大
桃山大	29（16－6、13－7）13	沖国大
広経大	32（19－8、13－15）23	近畿大
桃山大	33（20－9、13－11）20	広経大
近畿大	23（9－9、14－11）20	沖国大

■予選リーグCブロック

大同工大	22（15－10、7－9）19	広島大
関学大	31（17－12、14－6）18	神国大
大同工大	31（16－5、15－9）14	神国大
関学大	24（10－8、14－12）20	広島大
大同工大	23（12－7、11－13）20	関学大
広島大	27（12－10、15－8）18	神国大

■予選リーグDブロック

大経大	29（20－3、9－11）14	中京大
名桜大	26（11－15、15－8）23	天理大
大経大	22（12－9、10－8）17	天理大
名桜大	25（11－10、14－11）21	中京大
大経大	31（18－5、13－11）16	名桜大
天理大	17（5－8、12－9）17	中京大

■予選リーグEブロック

大体大	36（20－5、16－5）10	松山大
愛学大	26（11－9、15－9）18	熊学大
大体大	43（23－7、20－5）12	熊学大
愛学大	24（15－8、9－15）23	松山大
大体大	39（19－2、20－4）6	愛学大
松山大	24（10－6、14－13）19	熊学大

■予選リーグFブロック

愛知大	20（10－5、10－3）8	神戸大
東和大	28（13－10、15－9）19	同志社大
愛知大	23（13－10、10－8）18	同志社大
東和大	36（15－6、21－6）12	神戸大
愛知大	21（12－9、9－10）19	東和大
神戸大	24（11－13、13－10）23	同志社大

■予選リーグGブロック

関西大	35（17－11、18－10）21	立命館大
琉球大	29（13－17、16－10）27	愛教大
関西大	28（14－7、14－11）18	琉球大
立命館大	28（12－9、16－8）17	愛教大
関西大	27（14－6、13－9）15	愛教大
琉球大	25（18－10、7－13）23	立命館大

■予選リーグHブロック

福岡大	36（17－11、19－7）18	大教大
名城大	24（11－8、13－8）16	高松大
福岡大	24（8－10、16－9）19	高松大
名城大	25（11－10、14－14）24	大教大
名城大	24（8－9、16－6）15	福岡大
高松大	29（15－9、14－11）20	大教大

■準々決勝

中部大	38（21－11、17－13）24	桃山大
大経大	28（12－10、16－11）21	大同工大
大体大	42（21－8、21－10）18	愛知大
関西大	32（16－14、16－16）30	名城大

■インカレ出場決定戦

広経大	33（15－12、18－14）26	福教大
名桜大	26（8－15、18－10）25	東和大
愛学大	35（15－11、20－15）26	琉球大
福岡大	29（15－12、14－11）23	関学大

■準決勝

中部大	42（20－14、22－18）32	大経大
大体大	39（27－11、12－12）23	関西大

■決勝戦

大体大　33（18－13、15－10）23　中部大

＊２年ぶり26回目の優勝

■成績

優　勝　大阪体育大学
準優勝　中部大学
３　位　関西大学
３　位　大阪経済大学

■優秀選手賞

志水　孝行（大体大）
西村　紀之（大体大）
瀧元　泰昭（大体大）
新　　建二（大体大）
富田　恭介（中部大）
伊藤　千洋（中部大）
泉原　弘典（大経大）

■優勝監督賞

宍倉　保雄（大体大）

■特別賞

池田　　順（中部大）
渡辺　友輔（関西大）

【女　子】

■予選リーグａブロック

大教大	35（21－３、14－２）５	琉球大
中京女大	24（９－７、15－７）14	愛媛女短大
大教大	30（15－３、15－11）14	中京女大
愛媛女短大	28（12－７、16－11）18	琉球大
大教大	37（19－11、18－６）17	愛媛女短大
中京女大	25（11－５、14－７）12	琉球大

■予選リーグｂブロック

福教大	27（17－５、10－７）12	関西大
大体大	25（14－３、11－７）10	中京大
福教大	24（11－４、13－11）15	中京大
大体大	36（19－４、17－８）12	関西大
福教大	29（14－14、15－９）23	大体大
関西大	14（６－３、８－４）７	中京大

■予選リーグＣブロック

福岡大	24（12－８、12－９）17	龍谷大
天理大	24（13－８、11－11）19	桜花学大
福岡大	33（14－11、19－10）21	天理大
龍谷大	24（11－３、13－６）９	桜花学大
福岡大	26（14－５、12－７）12	桜花学大
龍谷大	21（８－８、13－９）17	天理大

■予選リーグｄブロック

武庫女大	27（12－８、15－４）12	京教大
沖国大	31（17－14、14－５）19	愛媛大
武庫女大	32（15－５、17－４）９	愛媛大
沖国大	24（14－12、10－12）24	京教大
武庫女大	25（13－５、12－５）10	沖国大
京教大	26（13－１、13－４）５	愛媛大

■準決勝

福教大	27（15－14、12－12）26	大教大
武庫女大	25（15－８、10－９）17	福岡大

■決勝戦

武庫女大　30（13－13、17－８）21　福教大

＊２年ぶり17回目の優勝

■成績

優　勝　武庫川女子大学
準優勝　福岡教育大学
３　位　福岡大学
３　位　大阪教育大学

■優秀選手

北村　恭子（武庫女大）
宮本　佳恵（武庫女大）
矢野　佳代（武庫女大）
池田まり子（福教大）
伊藤　　瞳（福教大）
平川　　優（福岡大）
野路　良子（大教大）

■優勝監督賞

櫻塚　正一（武庫女大）

■特別賞

市村　早紀（武庫女大）
中宗根　彩（大体大）

《スコアールーム②》　第23回山口県学生ハンドボール選手権大会春季大会

開催期日：平成17年4月23日（土）～24日（日）　　会　場：山口大学工学部体育館

山口大学本部	42	－	9	宇部高専
山口大学医学部	27	－	10	徳山高専
山口大学本部	41	－	10	徳山高専
山口大学医学部	22	－	20	宇部高専
宇部高専	31	－	10	徳山高専
山口大学本部	24	－	11	山口大学医学部

■結果

山口大学本部	３勝
山口大学医学部	２勝１敗
宇部高専	１勝２敗
徳山高専	３敗

■優秀選手

大西　孝典（山口大学本部）
藤本　靖雄（山口大学本部）
山根　正裕（山口大学本部）
高梨浩一郎（山口大学医学部）
清水　弘毅（山口大学医学部）
藤川　靖之（宇部高専）
廣中　　航（徳山高専）

■得点王

片岡俊輔（山口大学本部）

■ベストレフェリー

山根正裕（山口大学本部）
片岡俊輔（山口大学本部）

協会だより

平成17年度5月常務理事会

日　時：平成17年5月14日（土）
場　所：日本青年館MR－1
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事2名、参事1名、事務局3名

審議事項

1. 平成17・18年度評議員選任について（理事会書面表決にて）
理事会書面表決（5月17日）の結果で承認可否を決定。評議員は人事権を有するので、各都道府県、連盟においては顧問など名誉職ではない方を推薦する。

2. 平成16年度事業報告（案）について
資料により各担当常務理事が説明。評議員会では担当常務理事が責任を持って答弁する。

3. 平成16年度決算書（案）について
資料により説明。

4. 平成16年度日本協会表彰候補者（案）について
資料により説明。平成16年度の表彰者が新表彰規程に則り各都道府県協会、各連盟から18件推薦された。小松市立高校は日本協会推薦。広島メイプルレッズを日本協会推薦扱いとするかは表彰委員会で検討する。

5. 平成17年度日体協公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について
指導部中央委員会に連絡し、最低1名は推薦する。

6. 平成18年度叙勲及び褒章候補者推薦について
平成18年度は候補者がいないので、推薦しない。

7. 平成17年度第一次補正予算（案）について
資料により説明。収入新設項目として販売権料を設定。協賛金収入は、マーケティング事業収入に一元化。支出項目として、ユース世界選手権、地域スポーツ指導者養成講習会、競技別指導者養成講習会を新設。個人情報保護法と処理迅速化を考慮し、PC入力登録項目を削減。

8. 平成17年度大会派遣役員（案）について
資料により説明。

9. 強化資金捻出計画案
日本協会の映像資産を活かし、多くの人に役立つDVDを作成する。各チーム、連盟、都道府県協会に購入して頂き強化資金を捻出する。

10. 個人情報保護規程における管理者、監査責任者について
資料により説明。

11. 強化関係（ヒロシマ国際大会、女子ナショナル監督、2006AHF大会他）
資料により説明。女子ナショナル監督として契約したことが報告された。

報告事項

1. ペイオフ対応措置経過報告
2. ハンドボール損害賠償請求事件照会（熊本県）
3. 東アジアハンドボール連盟報告（議事録、大会結果）
4. 第8回ハンドボール研究集会、実践研究推進校募集要項
5. 平成17年度審判行事、全国大会審判員について
6. 平成17年度日本ハンドボールリーグ機構（研修会、組織図、日程）
7. がんばれハンドボール10万人会について（平成16年度還元金）
8. その他

その他資料

1. 平成17・18年度日本協会役員名簿、都道府県協会連盟事務局名簿
2. 団体用totoデビット会員カード、totoGOAL3新発売案内
3. 事務局連絡資料
4. 国際関係資料（国際情報、国際大会スケジュール）
6. 日本協会要覧（規定集）
6. 日体協「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業啓発リーフレット」
7. 平成17年度4月常務理事会議事録

（財）日本ハンドボール協会ナショナルチーム コーチングスタッフ（2005）

男子	男子					
	監督	所属	コーチ	所属	スタッフチーム	
日本代表	松井幸嗣	日本体育大学	冨本栄次	大同特殊鋼		
	ヘッドコーチ	所属	コーチ	所属		所属
U23	佐藤壮一郎	大同工業大学	玉村健次	湧永製薬	中山　剛	湧永製薬
U22					田村修治	東海大学
U21	玉村健次	湧永製薬	滝川一徳	茨城県立藤代紫水高等学校	河合　哲	香川県立香川中央高等学校
U20					金原理博	富山県立氷見高等学校
U19	滝川一徳	茨城県立藤代紫水高等学校	末岡政広	長崎瓊浦高等学校	北林健治	宮崎県立小林工業高等学校
U18					阿部直人	法政大学第二高等学校
U17					加藤益弘	江戸川区立葛西第三中学校
U16	末岡政広	長崎瓊浦高等学校	今井敬太	神戸市立井吹台中学校		
U15						

女子	女子					
	監督	所属	コーチ	所属	スタッフチーム	
日本代表	Bert Bouwer	（財）日本ハンドボール協会	荷川取義浩	北國銀行		
	ヘッドコーチ	所属	コーチ	所属		所属
U23	荷川取義浩	北國銀行	斉藤慎太郎	大同工業大学	堀田敬章	北國銀行
U22					大崎俊人	夙川学院高等学校
U21					細津　誠	吉川市立南中学校
U20	東江正作	（財）浦添市立公共施設管理公社	吉兼敦生	山口県立華陵高等学校	北野香代	九州女子短期大学
U19						
U18	繁田順子	四天王寺高等学校	楠本繁生	京都府立洛北高等学校		
U17						
U16	古橋幹夫	小松市立高等学校	石塚廣一	春日部市立春日部中学校		
U15						

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」6月入会・継続会員

【北海道】小笠原久郎、清水幸彦、小笠原一朗、小笠原可央子　【茨城】大谷秀之、武藤康夫　【群馬】酒井　宏　【東京】榎本雄一、漆原潤子、高橋利行、中野　滋、森谷雅師、滋賀頼幸、佐藤俊行、高橋和哉、柳　敏彦、松田美由紀、遠藤幸二、伊藤隆幸、馬場　徹、山口眞紀代、磯崎哲史、大西敏一、北永敏幸、辰野光威、溝口　毅、河野明彦、水止雄一、山岸武司、小笠原泰代、中村　拓、加納雅明　【神奈川】松井幸嗣、河野卓也　【福井】谷口信二　【静岡】細澤　覚　【愛知】禰津行雄　【大阪】本田勝亮、伊藤慎吾、下佐古明彦、山本正明　【鳥取】松原春子、松原理裕　【岡山】村木理英　【広島】福井恵二　【愛媛】越智　武　【福岡】日野祐一郎　【大分】伊藤道良

【8月の行事予定】

【大会】…………………………………………………………

8月1日（月）～8月7日（日）
高松宮記念杯第56回全日本高校選手権大会

8月6日（土）～8月7日（日）
第32回全国高等専門学校選手権大会

8月13日（土）～8月16日（火）
第10回ジャパンオープントーナメント（男子）

8月14日（日）～8月16日（火）
第10回ジャパンオープントーナメント（女子）
（第61回のじぎく兵庫国体リハーサル大会）

8月21日（日）～8月24日（水）
第34回全国中学校大会

8月27日（土）～8月28日（日）
第7回全日本ビーチハンドボール選手権大会

寄　付

7月4日、（株）エスエスケイ様からの寄付がありました。ありがとうございました。

お詫びと訂正

先月6・7合併号におきまして、第10回ヒロシマ国際ハンドボール大会　大会要項（p.22）の後援の項におきまして「広島県教育委員会」、「広島市教育委員会」に誤植がありました。訂正し、お詫び申し上げます。

HAND BALL CONTENTS Aug

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンド
ボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させ
ハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さと
サイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟で
リバウンド性能に優れます

1 人工皮革
2 フォーム層
3 補強層
4 ラバーチューブ

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十七年七月二十六日印刷 平成十七年八月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表 三四八一—二三六一
振替 〇〇二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円